
大田市新観光振興計画

〈資料編〉



平成 29 年 3 月

大田市新観光振興計画〈資料編〉

目次

1	大田市の意識調査結果	2
1.1	大田市観光動態調査 アンケート調査結果（平成 27 年）	2
1.2	大田市観光若者ヒアリング調査結果（平成 28 年）	7
1.3	大田市観光モニターツアー調査結果（平成 28 年）	14
1.4	大田市在住外国人ヒアリング調査結果（平成 28 年）	21
1.5	観光関連事業者ヒアリング調査結果（平成 28 年）	23
2	既存事業の進捗状況の確認及び検証	29
2.1	既存事業の進捗状況の確認及び検証	29
3	大田市の観光資源特性	41
3.1	歴史・文化的資源	41
3.2	観光資源及び施設	43
3.3	その他の資源	44

1 大田市の意識調査結果

1.1 大田市観光動態調査 アンケート調査結果（平成 27 年）

①目的

本市における今後の観光施策展開の基礎資料とするため、本市を訪れる観光客の観光動向やニーズを把握することを目的として平成 25 年より調査を実施。

②調査時期

・平成 27 年 2 月 8 日（日）、5 月 31 日（日）、7 月 19 日（日）、10 月 18 日（日）

③調査項目

・個人属性（住所、性別、年齢、団体構成等）、観光目的・動機、宿泊の有無、宿泊数、宿泊場所、来訪回数、利用交通機関、訪問地点・周遊コース、観光消費額、満足度、観光地等への意見。

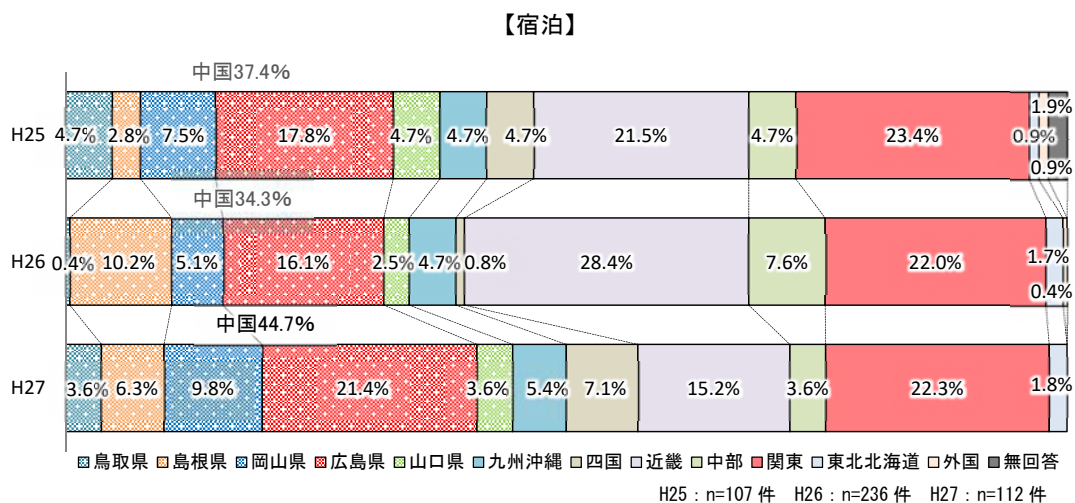
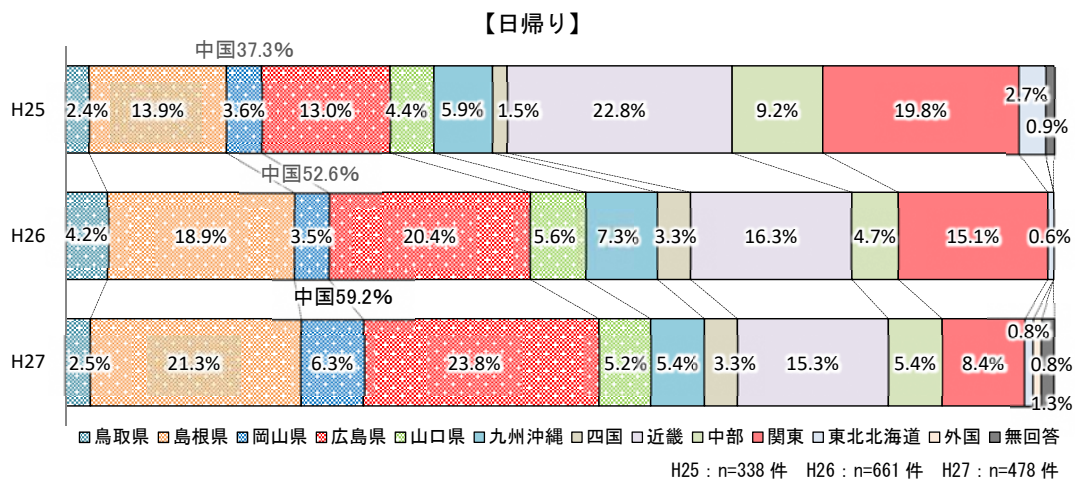
④取得枚数

・592 枚（1,612 サンプル）

結果の抜粋

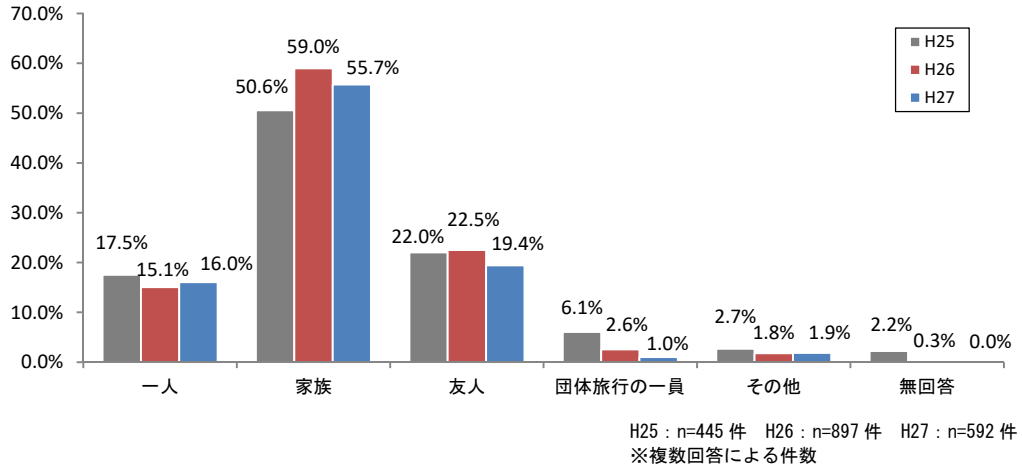
①発地傾向

- ・日帰りは、「島根県」、「広島県」の割合は増加傾向。「近畿地方」、「関東地方」の割合は減少が続く。
- ・宿泊は、「広島県」、「岡山県」、「四国地方」の割合が増加。「近畿地方」の割合は減少。



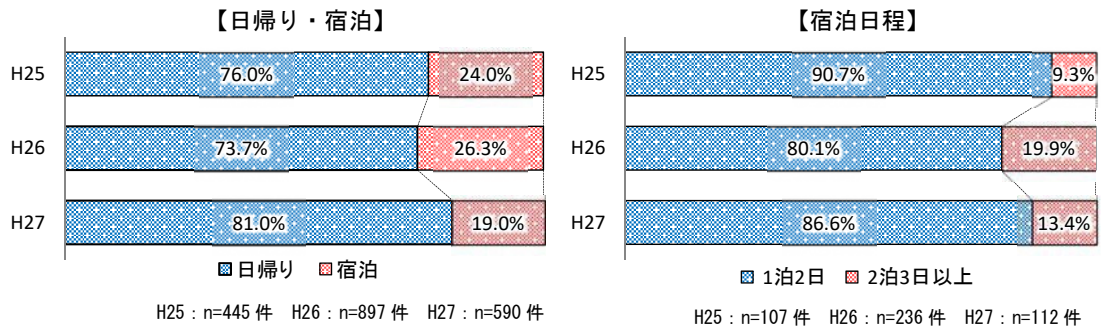
②メンバー構成

- ・「家族」の割合が最も高く55.7%、次いで「友人」19.4%、「一人」16.0%の順。
- ・「団体旅行の一員」の割合は、平成25年以降、減少傾向にあり、平成25年より5.1ポイント減少。



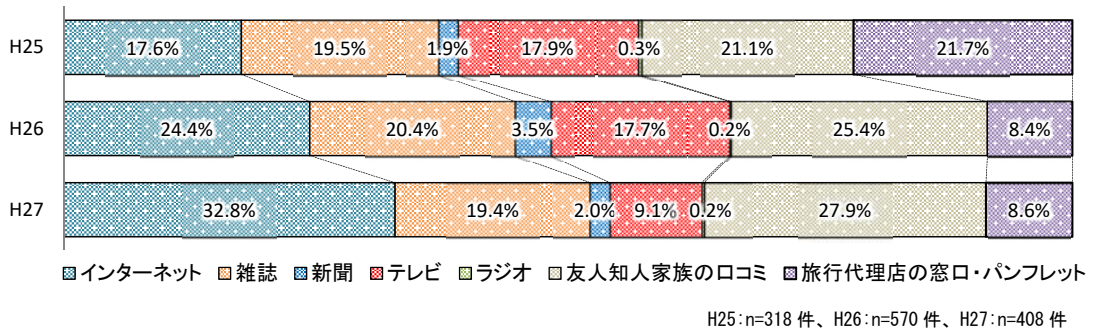
③旅行行程

- ・「日帰り」の割合が増加。
- ・宿泊客の内、「2泊3日以上」の割合は減少し、「1泊2日」の割合は約9割。



④きっかけとなる情報源

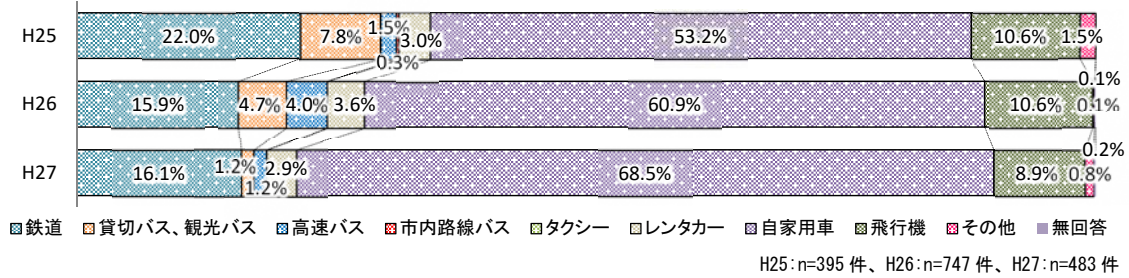
- ・「インターネット」の割合が増加し、「テレビ」の割合は昨年より約半数に減少。



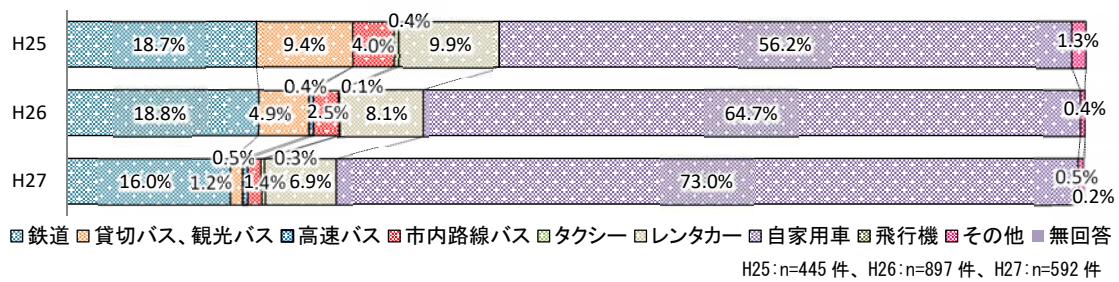
⑤利用交通機関

・「自家用車」の割合は増加傾向。「貸切りバス、観光バス」の割合は減少傾向。

【利用交通機関：県外（居住地⇒島根県）】



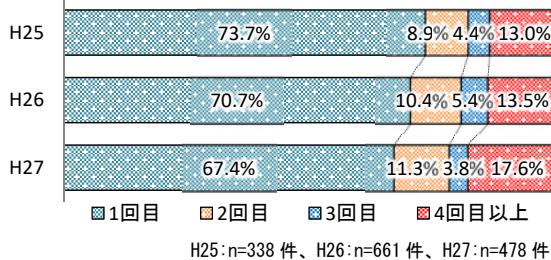
【利用交通機関：（県内）】



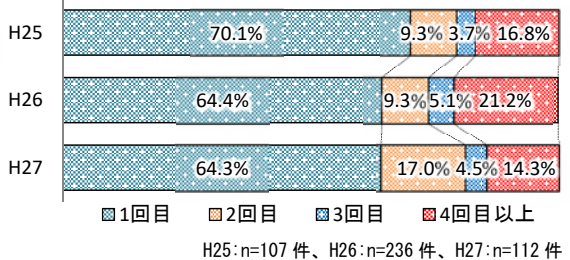
⑥市内観光施設への訪問回数

・日帰りでは、「4回目以上」の割合が増加傾向にあり、昨年と比較すると4.1ポイント増加。
 ・宿泊では、「4回目以上」の割合が昨年と比較すると6.9ポイント減少。

【日帰り-訪問回数（観光地）】



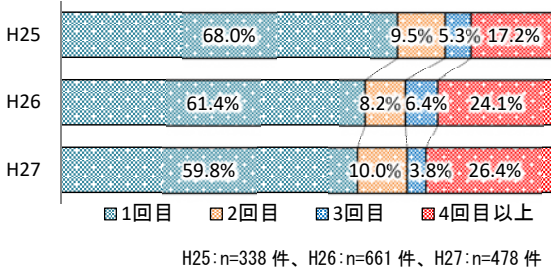
【宿泊-訪問回数（観光地）】



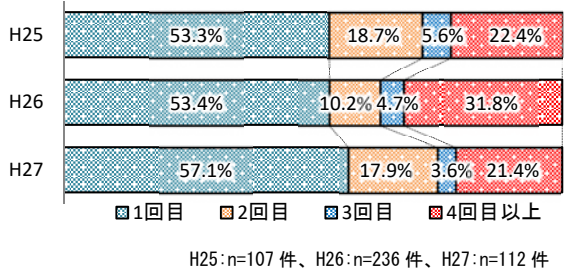
⑦大田市への訪問回数

・日帰りでは、「4回目以上」の割合が増加傾向にあり、一昨年と比較すると9.2ポイント増加。
 ・宿泊では、「4回目以上」の割合が昨年と比較すると10.4ポイント減少。

【日帰り-訪問回数（大田市）】

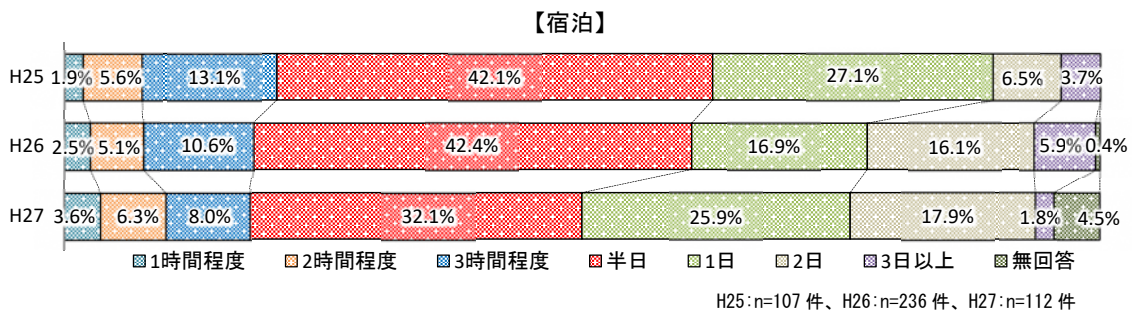
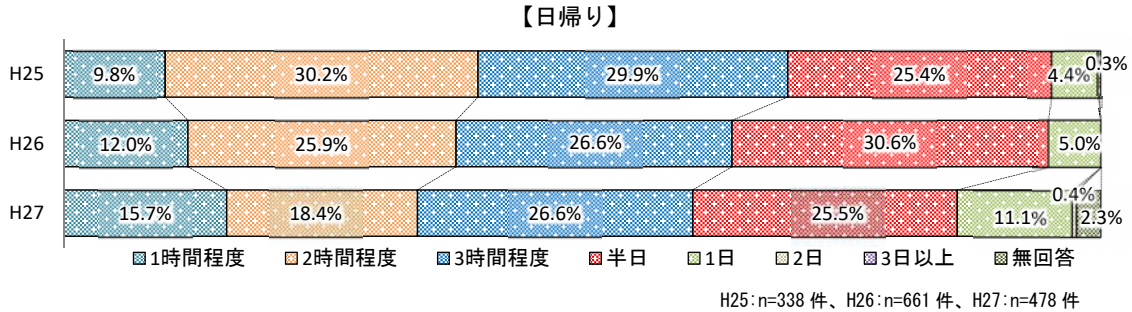


【宿泊-訪問回数（大田市）】



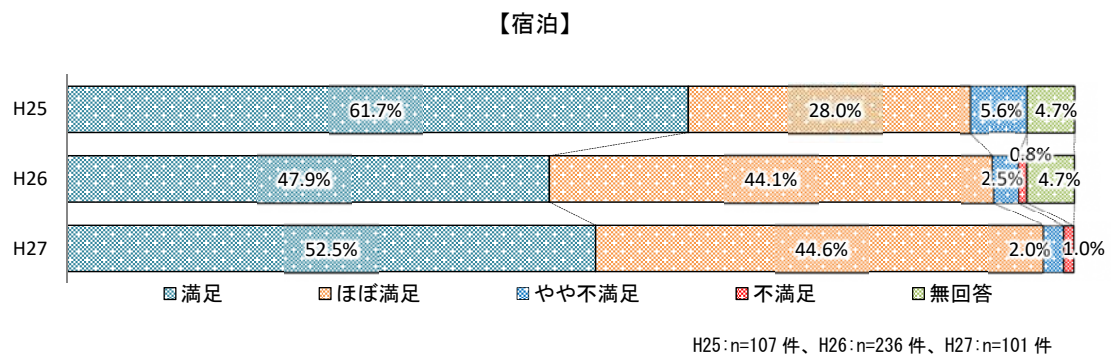
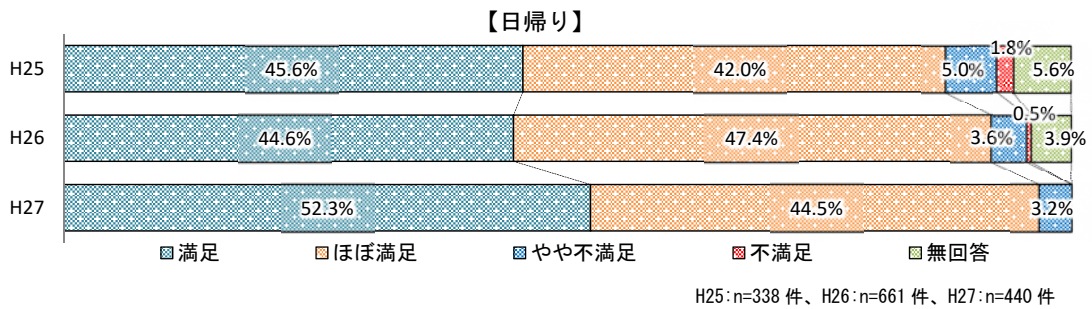
⑧滞在時間

- ・日帰りでは「3時間程度～半日」の滞在が全体の約5割、宿泊では「半日～1日」の滞在が全体の約6割を占める。
- ・滞在時間は「1日」の割合が日帰り及び宿泊で増加し、滞在時間は伸びている。



⑨満足度

- ・平成26年と比較すると、日帰り、宿泊ともに「満足」の割合は増加している。



⑩観光周遊ルート

- ※1. アンケート結果から観光地（調査地点）を訪問した旅行者が、他にどこかの観光地を訪問したのか、大田市の主要観光地エリアごとに周遊ルートを分析。
- ※2. 周遊ルート結果は訪問順序を考慮していない。
- ※3. 周遊ルート結果に示す（ ）内数値は前年値（H26）を示す。

<p>大森 (石見 銀山) エリア</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・「大森エリア」を訪れた観光客は、同エリア内のみの周遊が最も高く33%となっている。 ・併せて周遊する観光地では、「出雲市」への割合が24%と最も高くなっており、市内観光地よりも結びつきは高くなっている。
<p>三瓶山 エリア</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・「三瓶山エリア」を訪れた観光客は、同エリア内のみの周遊が最も高く72%となっている。 ・市内及び他市の観光地との結びつきは低く、限定的な周遊となっている。
<p>仁摩 エリア</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・「仁摩エリア」を訪れた観光客は、同エリア内のみの周遊は17%となっている。 ・併せて周遊する観光地では「大森エリア」の割合が36%と最も高くなっている。次いで「出雲市」22%、「浜田市」16%の順となっており、他市観光地への結びつきは高くなっている。
<p>温泉津 エリア</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・「温泉津エリア」を訪れた観光客は、同エリア内のみの周遊は17%となっている。 ・併せて周遊する観光地では、「大森エリア」への割合が47%と最も高くなっている。次いで「出雲市」24%、「松江市」19%の順となっており、他市観光地への結びつきは高くなっている。

1.2 大田市観光若者ヒアリング調査結果（平成 28 年）

①目的

若者世代に対して、本市の主要な各観光エリアへの来訪経験、観光イメージや満足度、潜在的なニーズ等について把握するとともに、若者世代が旅行の際に重要視するコンテンツなどを探り、大田市観光の魅力向上を図るための観光施策検討の基礎資料として活用することを目的とする。

②調査時期及び調査地点

- ・平成 28 年 11 月 20 日（日） 出雲大社「神門通り」（出雲市）及びアクアス（浜田市）

③調査項目

- ・回答者属性、旅行形態、主要な観光エリア（大森、三瓶山、温泉津、仁摩）への来訪経験、観光イメージや満足度、潜在的なニーズ等。

④取得枚数

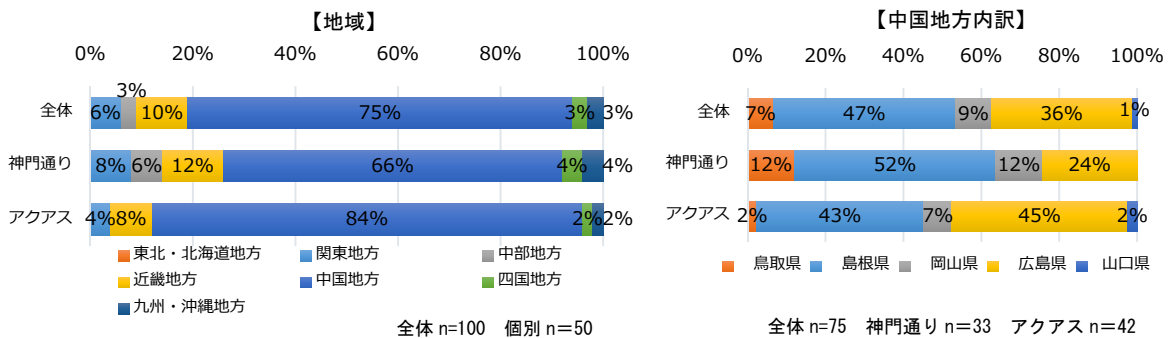
- ・100 サンプル（出雲大社「神門通り」：50 サンプル、アクアス：50 サンプル）

結果の抜粋

①回答者の属性

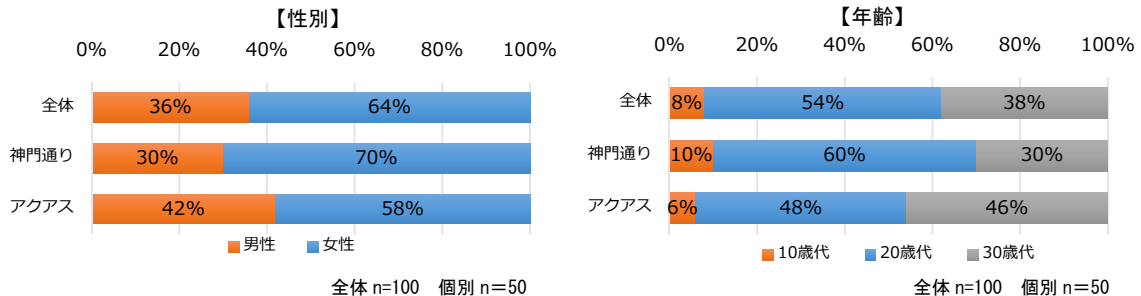
【住所】

- ・全体では、「中国地方」の割合が最も高く 75%、次いで「近畿地方」が 10%となっている。
- 「中国地方」の内訳では、「島根県」が約半数を占め、次いで「広島県」が 36%となっている。
- ・地点別では、アクアスで「中国地方」の割合が高く 84%。また、内訳では、「広島県」が 45%となっており「島根県」を上回っている。



【性別・年齢】

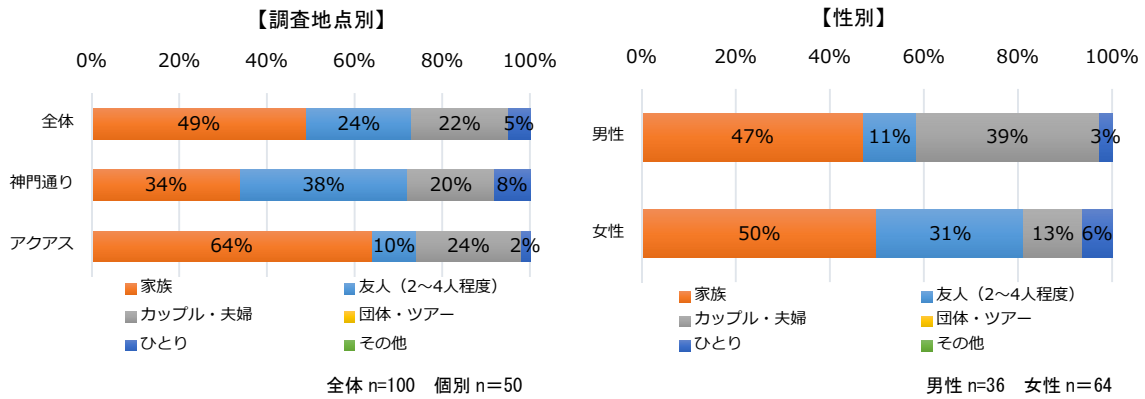
- ・神門通りでは、「女性」が 70%と高くなっており、年齢は「20 歳代」が 60%となっており、若い女性層が多くなっている。
- ・アクアスでは、「男性」が 42%、年齢は「20 歳代」と「30 歳代」が同程度となっている。



②旅行形態

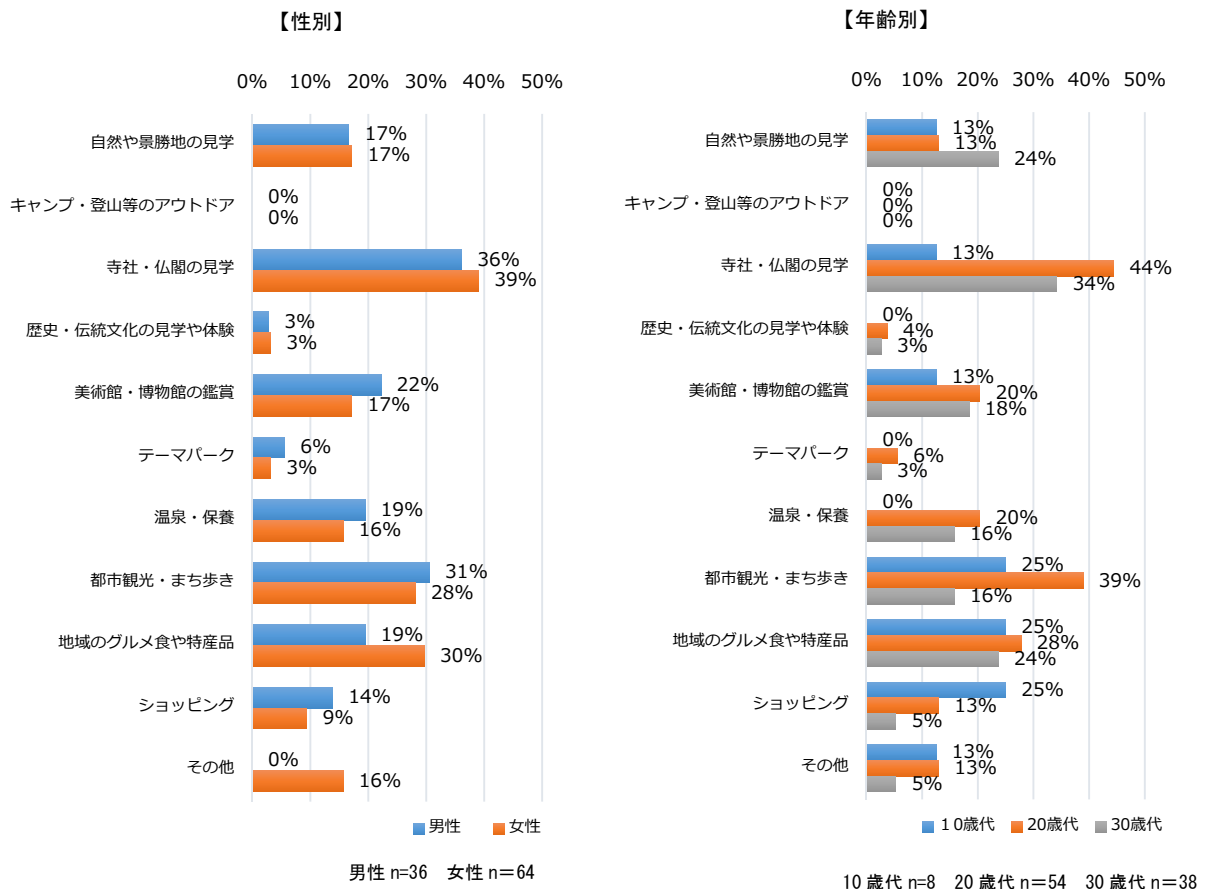
【同行者】

- ・神門通りでは、「友人（2～4人程度）」の割合が高く38%となっている。アクアスでは、「家族」の割合が高く、64%となっている。
- ・性別にみると、男性では「家族」が最も多く、次いで「カップル・夫婦」が多い。一方、女性では「家族」に次いで、「友人（2～4人程度）」となっており、性別で同行者に違いが見られる。



【山陰旅行でしたいこと】

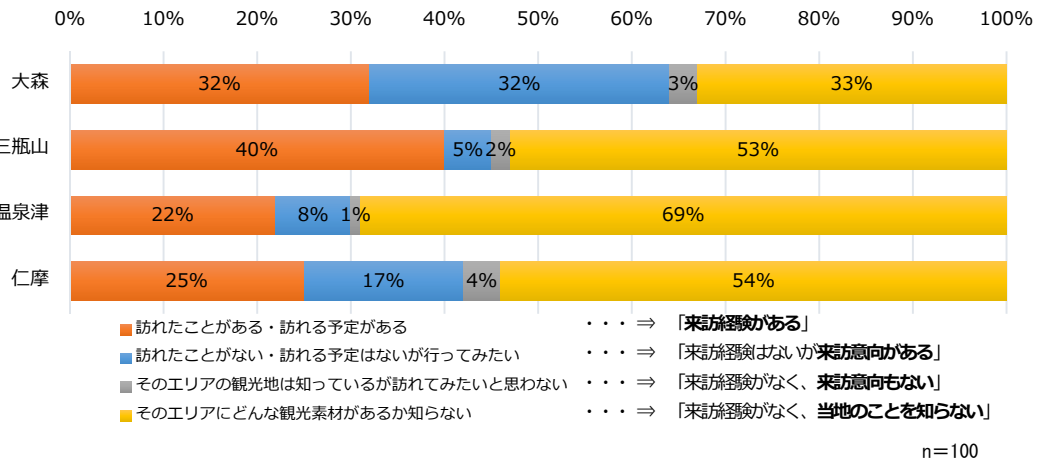
- ・性別では、男性、女性ともに「寺社・仏閣の見学」の割合が最も高く、約4割となっている。次いで「都市観光・まち歩き」が約3割となっている。「地域のグルメ食や特産品」では、女性が30%となっており、男性に比べて11ポイント多くとなっている。



③大田市内の観光地について（大森エリア・三瓶山エリア・温泉津エリア・仁摩エリア）

【エリアへの来訪について（共通回答項目）】

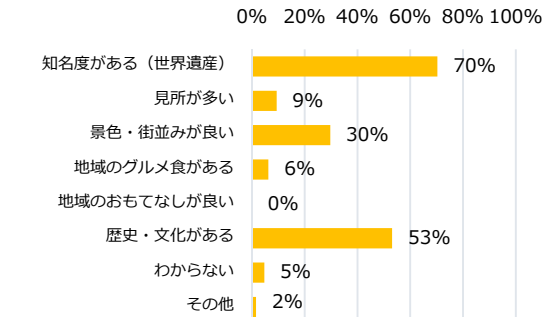
大森エリア	・「来訪経験がある」、「来訪意向がある」、「当地のことを知らない」が約3割と同程度。 ・「当地のことを知らない」が他のエリアに比べて割合が低く、エリアの中で最も認知度があるといえる。
三瓶山エリア	・「当地のことを知らない」が約半数を占めている。次いで「来訪経験がある」が4割となり、回答が二極化している。
温泉津エリア	・「当地のことを知らない」が約7割を占めており、他のエリアに比べて認知度が最も低くなっている。
仁摩エリア	・「当地のことを知らない」が約半数を占めている。次いで「来訪経験がある」が約3割。 ・「来訪意向がある」は約2割。来訪意向は、大森エリアに次いで高くなっている。



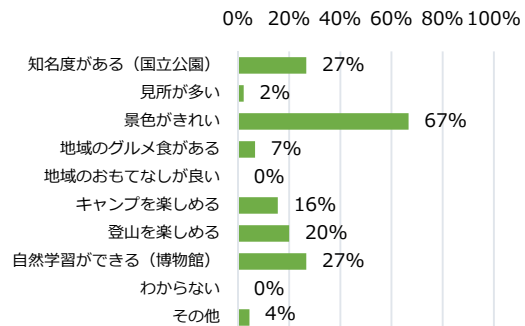
【観光地のイメージ（来訪経験がある方・来訪意向がある方の項目）（複数回答）】

大森エリア	・「知名度がある（世界遺産）」、「歴史文化」、「景色・街並みが良い」の順。
三瓶山エリア	・「景色がきれいな」、「知名度がある（国立公園）」、「自然学習ができる（博物館）」の順。
温泉津エリア	・「温泉・保養」、「知名度がある（温泉地）」、「景色・街並みが良い」の順。
仁摩エリア	・「知名度がある（砂時計）」、「知名度がある（海岸・鳴砂の浜）」、「漫画・映画のロケ地」の順。

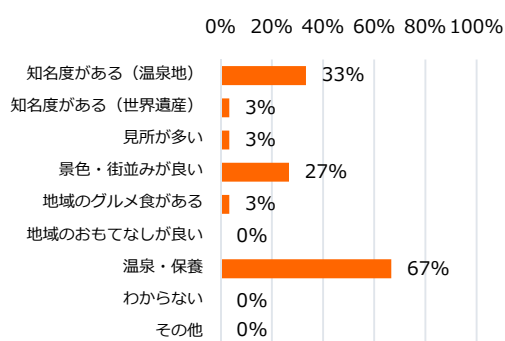
【大森エリア】 n=64



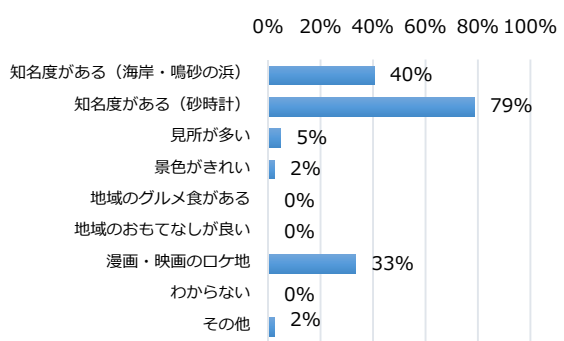
【三瓶山エリア】 n=45



【温泉津エリア】 n=30

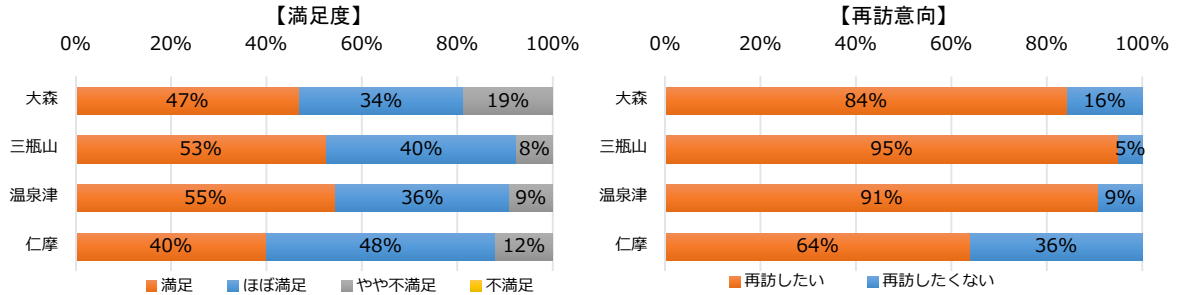


【仁摩エリア】 n=42



【満足度・再訪意向（来訪経験がある方の項目）】

大森エリア	・「やや不満足」の割合が他のエリアに比べて最も高い。
三瓶山エリア	・「満足」及び「ほぼ満足」の合計が約9割を占め、再訪意向とともに他のエリアに比べて最も高い。
温泉津エリア	・三瓶山エリアに次いで、満足度及び再訪意向の割合が高い。
仁摩エリア	・「再訪したくない」の割合が他のエリアに比べて最も高い。

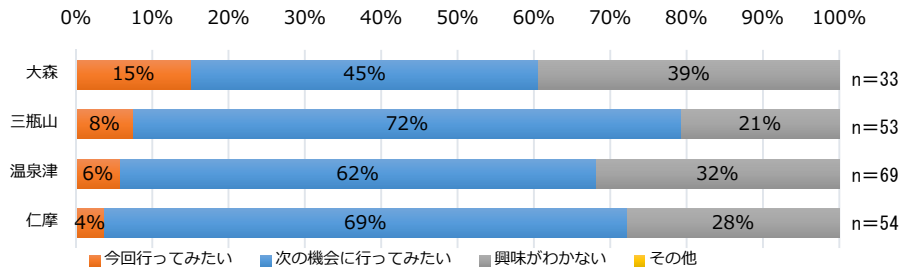


石見銀山 n=32、三瓶山 n=40、温泉津 n=22、仁摩 n=25

【来訪意向（観光資源を知らない方の項目）】

※大田市観光パンフレットにより観光地エリアを説明後、意向について回答を得た。

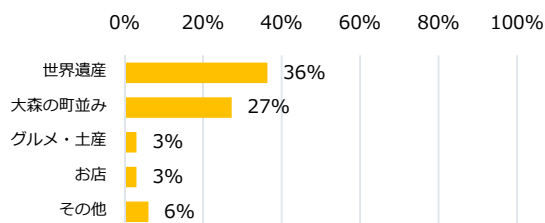
大森エリア	・「興味がわからない」が約4割となっており、他のエリアに比べて、来訪意向の割合が低くなっているものの、「今回行ってみたい」の意向も約2割みられる。
三瓶山エリア	・「次の機会に行ってみたい」が7割となっており、他のエリアに比べて来訪意向が高い。
温泉津エリア	・「次の機会に行ってみたい」が6割となっている。
仁摩エリア	・「次の機会に行ってみたい」が7割となっており、三瓶山エリアに次いで来訪意向が高い。



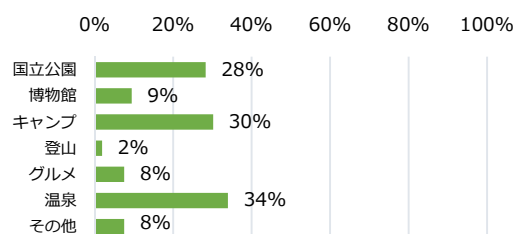
【興味がわいたもの（観光資源を知らない方の項目）（複数回答）】

大森エリア	・「世界遺産」、「大森の町並み」の順。
三瓶山エリア	・「温泉」、「キャンプ」、「国立公園」の順。
温泉津エリア	・「温泉」、「温泉街の町並み」、「焼物」の順。
仁摩エリア	・「仁摩サンドミュージアム」、「琴ヶ浜」の順。

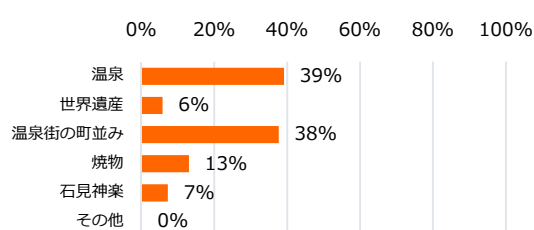
【大森エリア】 n=33



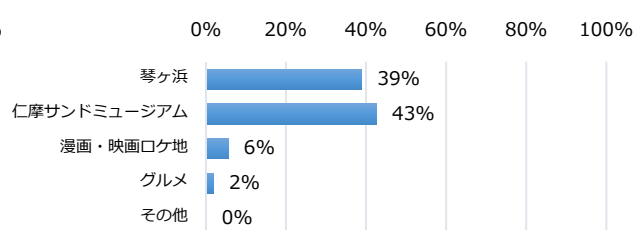
【三瓶山エリア】 n=53



【温泉津エリア】 n=69

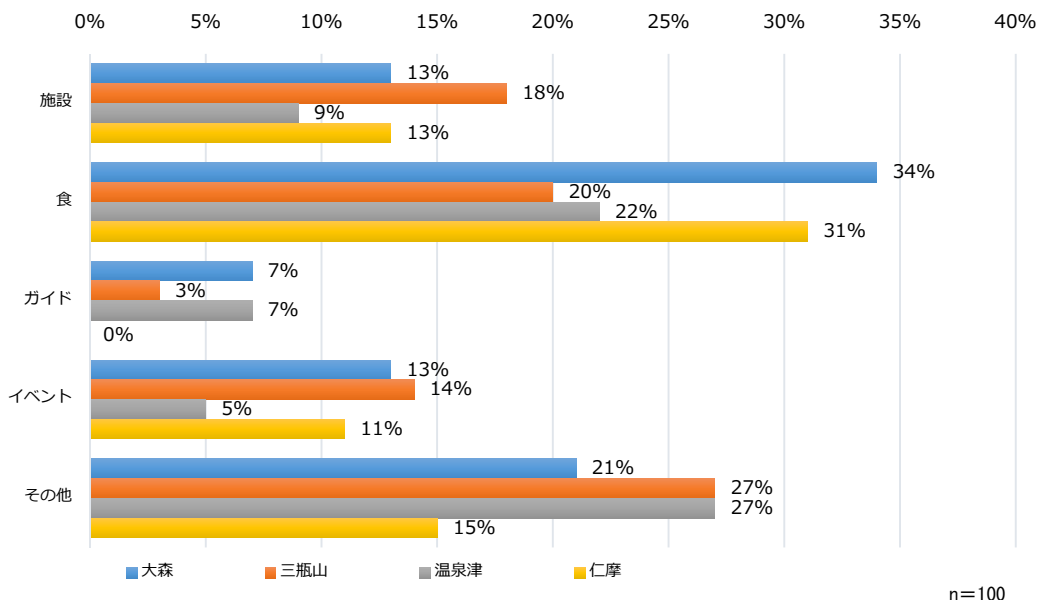


【仁摩エリア】 n=54



【エリアに求められるコンテンツ（共通回答項目）（複数回答）】

- ・「施設」に関するコンテンツは、三瓶山エリアが他のエリアに比べて割合が高くなっている。
- ・「食」に関するコンテンツは、各エリアで高くなっており、特に大森エリア、仁摩エリアにて高くなっている。
- ・「ガイド」に関するコンテンツは、大森エリア、温泉津エリアにて7%みられる。



④個別意見

1. 満足度に関する意見

エリア	良かった点	悪かった点
大森 エリア	わりと土産や食の買い物が出来て良かった	大人で文化を知っていれば楽しめる／子供は喜ばない
	町並みがきれいだった	よく分からなかった／世界遺産がよく分からなかった
	記念品が作れる	間歩が歩きにくかった／歩くのが多い
	文化がある／文化を知れてよかった／文化がよい	世界遺産前だったのでよく分からなかった
	—	夕方以降に行ったため、見るところが少なかった
三瓶山 エリア	自然が良かった／自然がいっぱい／自然が豊かな	他にどこに行けばよいか分かりにくかった
	博物館の説明が丁寧だった	人ががらがらで寂しいと思った
	空気がきれい／きれいな場所	道がわかりづらい
	景色が良い／昔から景色は良い／景色がきれいだった	歩き疲れる
	登山するのに良い	—
	満喫できる／楽しめた	—
	展示の仕方がうまい	—
	三瓶バーガーが食べられた	—
	広くて落ち着いている／ゆっくりできた／広いから	—
	色々なイベントがある	—
	歩くことが多いがまた行きたい	—

エリア	良かった点	悪かった点
温泉津 エリア	温泉街に風情があってよかった／古い温泉で良かった／レトロな感じがよい	道が狭くて車利用者が不便だった
	温泉がある	お湯が肌に合わない／好き嫌いが分かれる湯質だと思う／若い家族向きではないかも
	ゆっくりできた	車が通りづらい／駐車場がない
仁摩 エリア	砂の展示が良かった	琴ヶ浜とサンドミュージアム以外に何があるかわからない
	きれい	リピート性があまりない／何回も行こうとはあまり思わない／一度行けばいいかも
	見る場所がある／楽しめる	
	砂時計をみるのができた	少し遠い

2. エリアに求められるコンテンツに関する意見

【大森エリア】

<ul style="list-style-type: none"> ・「食」に関する意見が多く、次いで「その他」の意見が多い。 ・「食」については、【地域のグルメ】や【おしゃれなカフェ】の意見が多く、【食べ歩き】についても意見がみられた。 ・「ガイド」については、その必要性についての意見がみられた。 ・「その他」については、【公共交通アクセスの利便性】や【子ども連れで楽しめる場所】があればよいとの意見がみられた。 			
施設	子どもが楽しめる施設：3件	イベント	子ども参加イベント：3件
	便益施設（トイレ・駐車場）：3件		食イベント：2件
	店舗等：3件		気軽・手軽なイベント：2件
	温泉施設：2件		その他：2件
	体験施設：2件		
食	地域のグルメ：16件	その他	公共交通アクセス利便性等：5件
	おしゃれなカフェ：5件		子ども連れで楽しめる場所：4件
	食べ歩き：2件		情報・PR：3件
	店舗数：1件		写真映えするスポット：2件
	時間帯：1件		周遊ツアー：2件
ガイド	ガイド案内：4件		そのまま・何もしない方がよい：2件
			体験：1件
			その他：2件

【三瓶山エリア】

<ul style="list-style-type: none"> ・「その他」の意見が多く、次いで「食」、「施設」に関する意見が多い。 ・「食」については、【グルメ】や【カフェ】の意見が多くみられた。 ・「施設」については、【インドア向け・アウトドア初心者向けの施設】があればよいとの意見が多くみられた。 ・「その他」については、【子ども連れで楽しめる場所】のほか、【そのままよい】といった意見のほか、アウトドアの苦手な方からは【初心者でも楽しめる場所や気軽に楽しめる場所】などの意見がみられた。 			
施設	インドア向け・アウトドア初心者向け等の施設：7件	イベント	アウトドア：3件
	温泉施設：3件		食イベント：2件
	子供と遊べる施設：3件		その他：6件
	便益施設（トイレ・休憩所）：2件		
	その他：3件		
食	グルメ：7件	その他	子ども連れで楽しめる場所：7件
	カフェ：6件		そのままよい：7件
	ロケーション：1件		アウトドア初心者向けでも楽しめる場所・気軽に楽しめる場所：4件
			情報・PR：2件
ガイド	ガイド案内：1件		スキー場の花火：2件
			その他：5件

【温泉津エリア】

<ul style="list-style-type: none"> ・「その他」の意見が多く、次いで「食」に関する意見が多い。 ・「食」については、【地域グルメ】、【カフェ】があればよいとの意見が多くみられた。 ・「施設」については、【便益施設】のほか、【足湯スポット】などの温泉街に関する意見がみられた。 ・「その他」については、【情報・PR】の充実についての意見が多くみられた。 			
施設	便益施設（休憩所・駐車場）：4件	イベント	季節イベント：1件
	足湯スポット：3件		子ども参加イベント：1件
	気軽に宿泊できる施設：2件		その他：1件
食	地域グルメ：8件	その他	情報・PR：8件
	カフェ：5件		交通アクセス：3件
	温泉とセット：2件		子どもと楽しめるところ：3件
	夜の店：1件		夜のまち歩き：2件
ガイド	ガイド案内：2件		その他：9件

【仁摩エリア】

<ul style="list-style-type: none"> ・「食」に関する意見が多く、次いで「その他」、「施設」の意見が多い。 ・「食」については、【地域グルメ・美味しいもの】や【カフェ】があればよいとの意見が多くみられた。 ・「施設」については、【海沿い・周辺で立ち寄れるスポット】や【海で遊べる場所・足洗い場等】などの海岸や浜辺に関する意見が多くなっている。 ・「その他」については、【情報・交通アクセス】や【子どもと楽しめる場所】があればよいとの意見が多くみられた。 			
施設	海沿い・周辺で立ち寄れるスポット：6件	イベント	子ども参加イベント：2件
	海で遊べる場所・足洗い場等：4件		その他：7件
	宿泊施設：2件		
食	地域グルメ・美味しいもの：17件	その他	情報・交通アクセス：5件
	カフェ：9件		子供と楽しめる場所：2件
			海水浴場：2件
ガイド	－		その他：5件

1.3 大田市観光モニターツアー調査結果（平成 28 年）

①目的

国内観光旅行における年間宿泊数では、20～30歳代を中心に女性が男性に比べて活発となっており、また、島根県においても「ご縁」をテーマとして女性をターゲットとした観光施策を展開している。

当モニターツアーでは、女性を対象として、大田市内の観光を体験して頂き、単身世代、子育て世代等の世代間による嗜好を探るとともに、市内の主要観光地等における、良し悪しなどを洗い出し、当該ターゲットに対して、訴求力のある観光地形成に向けた観光施策検討の基礎資料として活用することを目的とする。

②調査時期及び工程

・平成 28 年 11 月 26 日（土）及び 11 月 27 日（日）の 1 泊 2 日間

一日目	大田市役所（集合）→物部神社→三瓶小豆原埋没林公園→三瓶自然館サヒメル→SANBE BURGER（昼食）→太平山→浮布池→仁摩サンドミュージアム→琴ヶ浜→温泉津温泉（宿泊）・龍御前神社（夜神楽）
二日目	温泉津温泉散策（西念寺裏街道・龍御前神社・薬師湯）→やきもの里→石見銀山（昼食）石見銀山資料館・龍源寺間歩→大田市役所（解散）

③企画手法

- ・大田魅力発掘グランプリ投票結果や大田市観光動態調査結果等をもとに人気の高い観光資源をめぐりコースとした。
- ・ツアー中は、ツアー団体としてではなく個人観光客を想定した意見を頂く為、バスガイド等の観光案内を行わず、事前配布によるパンフレット、各施設の案内から情報を得るものとした。

※事前配布パンフレット：島根県大田市ガイドブック「石見銀山ウォーキングミュージアム」

④参加者

- ・20～50歳代 合計 10 名

結果の抜粋

①印象に残ったこと（参加者の意見を抜粋）

エリア	内容	エリア	内容
三瓶山 エリア	・物部神社 ・移動距離が長い	大森 エリア	・龍源寺間歩までの距離が長い
温泉津 エリア	・夜神楽 ・温泉 ・旅館がアットホーム ・やきもの体験	その他 エリア	・女性向けのレトロ感、古民家の感じがとても素敵 ・どのスポットも草刈りや植木の刈り込みなど、きれいに手が入れている ・美味しいものがたくさんある

②大田市観光の改善点（参加者の意見のキーワードとなる部分を抜粋）

キーワード	内容
モデルコースの 提案	・エリアごとにターゲットを絞る ・コンパクトに回れたらいい ・ひとつひとつの観光地にテーマをつける ・「所要時間」「値段」を詳しく教える
観光地周辺	・観光地周辺で盛り上げる
発信	・ご縁をもっと出していく ・パンフレットは充実している ・積極的に発信をすれば、リピーターが増えるのでは
グルメ、温泉	・40代女性なので興味がある
楽しめる場	・見て、触れて
夜神楽	・温泉津に来たら夜神楽が見ることができるという印象をつける（土曜日以外は 3D 映像を流す）
案内板・駐車場	・整備
トイレ	・使いやすさ ・車いすの方でも入れる様に ・清潔であること ・オムツを換えるスペース

③三瓶山エリア モニターツアー結果概要

三瓶山エリア (1/2)

観光イメージ (来訪前)		三瓶山エリアの観光イメージは、「景色がきれい」が最も多く7件 次いで、「登山を楽しめる」、「自然学習ができる」が4件	
興味がわいたもの (来訪後)		訪問しなかったスポットのうち興味がわいたものは、「温泉」が最も多く7件 次いで、「国立公園」が5件、「グルメ」が4件(複数回答)	
エリア全体の楽しみ方	キーワード(誰と)	キーワード(何を)	
	大人	・熟睡プラネタリウム ・リラックスプラネタリウム	
	家族で	・アスレチックのある公園 ・キャンプ ・バトミントン、フリスビー、ソリ滑り等、三瓶の平野での遊び ・遊具の貸出 ・レンタサイクルでサイクリングコース ・ドッグラン ・お弁当を持って行って食べられるスペース ・あまりお金をかけずに楽しめるような場所 ・生き物や自然に触れる体験 ・生き物に触れたりクイズで楽しめたりするところ ・サヒメルや埋没林	
	友人と	・コテージで自然体験	
	カップル、夫婦で	・グランピング ・おしゃれなカフェ	
	女性向け	・飲み物が充実しているといいな ・サヒメルドームでリラックスタイム ・おしゃれなカフェ	
	その他	・三瓶食フェスタ ・登山と観光コース ・ハイキングコース ・レンタカーと連携してマップやナビ ・自動運転で勝手に車が走ってくれる ・勝負運にご利益がある(物部神社) ・雨の場合も楽しめる場所があれば	
個別のスポットについて(次ページに続く)	物部神社	来訪後の満足度：9割が「楽しめた」 再訪意向：8割が「再訪したい」	
		良かった点(意見概要)	・日本の文化を感じられる石見の一宮 ・石と勾玉が印象に残る ・参拝方法の説明版が分かり易かった ・参拝しやすい広さ ・トイレがきれい
		悪かった点(意見概要)	・特徴がない ・場所が分かりにくい ・神社の人の挨拶がない ・風が吹きかけていて寒かった
		魅力向上のためのコンテンツ(意見概要)	・参拝ルート等の神社の説明パンフレット ・寒い時期は、足元に電気ストーブ ・勝石にまつわるグッズとPR ・食べ物のお店 ・御朱印帳の種類 ・食べ物の出店 ・地域らしい祭り ・パワースポットを売りにしたイベント ・敷地が広いので、フリーマーケット・足湯など気軽に立ち寄れる所
	三瓶小豆原埋没林公園	来訪後の満足度：6割が「楽しめた」 再訪意向：4割が「再訪したい」	
		良かった点(意見概要)	・4000年前の木が残っていることに感動 ・神秘的な感じで、落ち着ける ・施設全体が広がった
		悪かった点(意見概要)	・施設に来るまでの道が分かりにくい ・特徴がなく興味がわからない ・説明が難しい／アナウンスが聞こえない ・売店が小さい／喫茶スペースが無い
	魅力向上のためのコンテンツ(意見概要)	・遊具やベンチの設置 ・カフェスペースとかあったほうが良い ・クイズや映像で簡単な説明 ・音声案内の音量を大きく ・順路がよく分からない ・地下内の気温がわかるようになってると良い ・「幸せ杉」／杉を使ったお土産 ・ラトちゃんグッズなど、大田市の物もあるとよい ・(お土産の)種類が少ない／インパクトがない ・寒かったので、冷えの対策グッズが欲しい ・スタンプラリー ・縄文時代をテーマにしたイベント ・埋没林のパワーから健康をテーマに(神秘のヨガ等) ・施設に向かうまでの道に案内看板が必要	

三瓶山エリア (2/2)

個別のスポットについて	三瓶自然観サヒメル	<p>来訪後の満足度：6割が「楽しめた」 再訪意向：8割が「再訪したい」</p> <p>良かった点 (意見概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見るところがたくさんある ・プラネタリウムが良い ・子供が喜ぶ施設 ・ちょっとしたカフェや授乳室など配慮がたくさんあった ・スタッフが親切で笑顔 ・木の商品
		<p>悪かった点 (意見概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大人向けの施設ではない ・施設が広く迷う／通路が寂しい感じ
		<p>魅力向上の為のコンテンツ (意見概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動物と触れ合う体験 ・子供向け体験イベント ・プラネタリウムは対象者を変えて違う映像を流す ・三瓶だけの動物や植物をもっとクローズアップ ・館内図やスタッフによる館内案内の充実 ・テンビー等のキャラクターグッズを増やす／種類を増やす ・大人向けのプラネタリウムイベント ・木のおもちゃ展がよかった／常設でも良いぐらい ・地元の野菜とか加工品のフリーマーケット
	SANBE BURGER	<p>来訪後の満足度：6割が「楽しめた」 再訪意向：8割が「再訪したい」</p> <p>良かった点 (意見概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハンバーガーもポテトも美味しい ・島根県の食材を使っている ・自然とマッチしていて、くつろげる雰囲気 ・ドックカフェがあるのが良い ・きれいで広さもゆったりとしてよかった
		<p>悪かった点 (意見概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・値段が高い ・冷めていたのが残念／島根産の特徴がない ・接客がよくない ・設備の充実 ・木の椅子は長時間座れない
		<p>魅力向上の為のコンテンツ (意見概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カフェと併せてドックランを作る ・山や季節のイメージに合わせた飾りつけ (薪や暖炉等) ・スイーツ等のサイドメニューの充実 ・サイズが選べるようにする／量を増やす ・ここでしか食べられないような種類のハンバーガー ・食材に良いものを使っているのなら、その食材の説明があると良い ・ハンバーガーのお土産 ・島根産の野菜販売など、オリジナル商品 (お土産) ・お土産の種類を増やす
	三瓶観光リフト 大平山	<p>来訪後の満足度：7割が「大変楽しめた」 再訪意向：9割が「再訪したい」</p> <p>良かった点 (意見概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リフトからも頂上からも景色がきれい ・従業員さんが笑顔で対応
		<p>悪かった点 (意見概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寒い ・建物が閑散としていて寂しそう ・リフトが高くて怖い
		<p>魅力向上の為のコンテンツ (意見概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カフェ等の温まれる場所 (季節に合わせた軽食) ・子供が遊べる公園 ・散策の為の整備 (説明版や道) ・ポストカード ・ここでの土産販売は特になくてもいい ・食のイベント ・ソリ、グラススキー、パラグライダー ・季節に合わせたイベント (秋は紅葉・夏は星を見るツアー) ・リフトの割引日をつくる (毎月3日をサハの日)
	浮布池展望所	<p>来訪後の満足度：9割が「あまり楽しめなかった」 再訪意向：7割が「再訪したくない」</p> <p>良かった点 (意見概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三瓶山がきれいに見える ・整備がされていた (東屋、草刈り)
		<p>悪かった点 (意見概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たどり着くのが難しい ・トイレがない ・駐車場がない ・何もなくて寂しい ・池にうつる三瓶山が見れなかった
		<p>魅力向上の為のコンテンツ (意見概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレと駐車場の確保 ・どこかに自販機をおいては ・ボートやカヌーができる ・フォトコンテスト ・結婚式 (縁結び関係) ・花見の名所にする ・パンフレットを作る

④仁摩エリア モニターツアー結果概要

仁摩エリア (1/1)

観光イメージ (来訪前)		仁摩エリアの観光イメージは、「知名度(砂時計)」が最も多く10件 次いで、「漫画・映画のロケ地」、が7件(複数回答)	
興味がわいたもの (来訪後)		仁摩エリアで興味がわいたものは、「琴ヶ浜」が最も多く8件 次いで、「サンドミュージアム」が6件(複数回答)	
エリア全体の楽しみ方	キーワード(誰と)	キーワード(何を)	
	家族で	・サンドミュージアムの敷地内、お弁当持ちでピクニック	
	子供向け	・サンドミュージアムで、砂を使った体験製作 ・サンドミュージアムで砂遊び	
	友人と	・砂とお花、砂とハーブなど組み合わせて喫茶店	
	カップル、夫婦で	・砂時計や鳴き砂は、恋人同士は楽しくなる ・イベント(縁結びスポット、占い、おみくじ、お守り?) ・お揃いの物 ・砂とお花、砂とハーブなど組み合わせて喫茶店	
	女性向け	・砂アート ・パンフレットを可愛らしいイラストに ・写真撮影スポットを表示 ・ロマンチックな女子旅	
その他	・デザート ・無料でも遊ぶことができる場(足湯、温泉卵づくりなど) ・作った物を持って帰れるコーナー ・砂像を作ってみる体験 ・グラスサンドアート ・大江ノ郷のように、あの地に行かないと手に入らない物がないと厳しい ・駐車場案内、スペース確保 ・琴ヶ浜にも案内が現地に書いてあれば ・ターゲットを絞ってみたら ・地元の方がPRすべき ・鞆ヶ浦遊覧伝馬船で銀山の昔を海から感じてもらう		
個別のスポットについて	仁摩サンドミュージアム	来訪後の満足度：6割が「楽しめた」 再訪意向：7割が「再訪したい」	
		良かった点 (意見概要)	・施設がきれいでオシャレ ・砂絵や砂に触れる等の体験ができる ・砂時計が見れた
		悪かった点 (意見概要)	・トイレの設備の充実 ・休憩場所の確保(座るところが少ない) ・展示物が多くてメインが分からない ・ガラス製品が多い/種類が少ない
		魅力向上のためのコンテンツ (意見概要)	・グラスサンドアートを作成見学等 ・カフェコーナー ・子供が遊べる砂場 ・授乳室の整備 ・ガラス製品以外の食べ物等を置いてほしい ・ご縁に関係した物(カップルで訪れやすくなる) ・ガラス工芸品の種類を増やす(アクセサリやコップ) ・目の前で作成したグラスサンドアートの販売 ・葉書を砂で色づけしたものをお花とかインテリアの物でお土産に持って帰られるものがほしい ・砂時計作成等の体験 ・カップル対象のイベント ・季節ごとや年末のイベント(新年のカウントダウン) ・砂時計映画上映やロケ地を巡るツアー
	琴ヶ浜	来訪後の満足度：6割が「楽しめた」 再訪意向：8割が「再訪したい」	
		良かった点 (意見概要)	・実際に音が鳴って楽しかった ・海の景色が良かった
		悪かった点 (意見概要)	・砂浜以外何もなく、観光地という感じではない ・道が狭い ・駐車場がどこかわからない
		魅力向上のためのコンテンツ (意見概要)	・場所が分かるようにイラスト付きの看板の設置 ・周辺を“鳴砂ロード”として町全体で盛り上げる ・駐車場への案内 ・写真が撮れるスポットをつくる(夕日スポット)

⑤温泉津エリア モニターツアー結果概要

温泉津エリア (1/2)

観光イメージ (来訪前)	温泉津エリアの観光イメージは、「知名度(温泉地)」が最も多く8件 次いで、「温泉保養」が6件(複数回答)			
興味がわいたもの (来訪後)	温泉津エリアで興味がわいたものは、「石見神楽」が最も高く8件 次いで、「温泉」が7件(複数回答)			
エリア全体の楽しみ方	キーワード(誰と)	キーワード(何を)		
	家族で	・やきもの作り ・街を散策	・釣ったものを焼いて浜辺でバーベキュー ・夜神楽	
	友人と	・やきもの作り	・温泉	
	カップル、夫婦で	・早めのチェックイン	・足湯 ・町の散策をして夕食後の神楽	
	子供向け	・神楽		
	女性向け	・やきもの体験 ・着物を着て温泉街を散策 ・薬師湯で温まる ・旅館でゆったり(神楽を楽しむのもOK) ・写真スポットがわかりやすいと嬉しい ・占い(願いが叶う、美人になれるスポット) ・化粧品のコーナー ・薬師湯など風情がある施設		
	母と	・温泉に入ってしまった ・軽食でパン屋さん		
	その他	・カフェや雑貨屋さんでゆっくり ・昔の雰囲気が残っていて魅力的 ・温泉と夜神楽はセット ・衣装を着させてもらって記念撮影(神楽の体験) ・駐車場の整備		
個別のスポットについて(次ページに続く)	夜神楽	来訪後の満足度: 9割が「大変楽しめた」 再訪意向: 10割が「再訪したい」		
		良かった点(意見概要)	・舞台が近く迫力があつた ・神楽を大切にしている/ストーリーが分からなくても、舞のすばらしさに魅了される	
		悪かった点(意見概要)	・寒かつた ・長時間座っているのが大変	
		魅力向上のためのコンテンツ(意見概要)	・今のままで良い ・神社までの道のりをライトアップ ・夜店を出して、お祭りの雰囲気を出す ・写真撮影や小道具がもらえたり、今のままで十分 ・外国人やお年寄りの為に、座布団やイスを置く ・ストーブやひざ掛けを充実させる ・境内の中というのが良いと思うので、今のままで ・ツアー団体の行程に入れる ・神楽の演武についての説明を加える ・お土産を増やす	
	温泉津温泉(宿)	来訪後の満足度: 6割が「楽しめた」 再訪意向: 9割が「再訪したい」		
		良かった点(意見概要)	・部屋が広い ・宿の雰囲気がまちなみにマッチしている ・綺麗で素敵な宿 ・料理が美味しい	・薬師湯に近い ・従業員の人が家庭的
		悪かった点(意見概要)	・温泉のお湯がぬるい ・部屋が寒い ・お土産がない	・メインの温泉が狭い ・部屋に冷蔵庫がない ・暗くなると場所が分かりにくい
		魅力向上のためのコンテンツ(意見概要)	・お品書きがほしい ・大田、温泉津の名産がわかるように ・魚以外の何か欲しい(肉類) ・コタツが欲しい ・ドライヤーとバスタオルが欲しい ・飲み物の充実 ・自動販売機が欲しい ・各部屋に洗面台とトイレを設置 ・洗面台や洗面所を広く ・階段の勾配をゆるくしてほしい ・1階のコタツでみかんを食べる様なホールをつくる ・外湯に持っていくお風呂セットのサービス ・お土産の販売、種類を増やす(神楽関係の物)	

温泉津エリア (2/2)

個別のスポットについて	温泉津温泉 (まちなみ)	来訪後の満足度：5割が「楽しめた」 再訪意向：10割が「再訪したい」	
		良かった点 (意見概要)	<ul style="list-style-type: none"> ・レトロで可愛いまちなみ ・風情がある ・静かで落ちつく
		悪かった点 (意見概要)	<ul style="list-style-type: none"> ・旅館の場所がわかりにくい ・駐車場と旅館の数が少ない ・休憩する場所がない ・歩道がないので怖い ・お店の開店時間が遅く、閉店時間が早い
	魅力向上の為 のコンテンツ (意見概要)	<ul style="list-style-type: none"> ・飲食店、雑貨屋、お土産屋があれば良い ・お土産屋の一店集中型／品揃えを多くする ・休憩ができる場所／足湯の設置 ・神楽の博物館 ・早朝から営業するお店 ・夜神楽が終わった後に立ち寄れるカフェ／古民家カフェ ・民泊客に合わせて、地元の食材が食べられるレストラン ・神楽とコラボレーションした商品や、やきものの里の商品を販売 ・お寺や神社、座禅、神楽等の体験 ・スタンプラリー ・神楽と神社に絡んだ夏祭り ・宿泊客にはおもてなしのサービス ・「昭和にタイムスリップ」のみたいな体験があるとよい ・神社に縁結び要素を取り入れると女子が来やすいと思う 	
	やきものの里	来訪後の満足度：6割が「楽しめた」 再訪意向：9割が「再訪したい」	
		良かった点 (意見概要)	<ul style="list-style-type: none"> ・登り窯を初めて見た ・程よい広さで良いと思う ・実際に体験ができ、オリジナルの作品をつくることができる ・作っている作品でコーヒーが飲める ・スタッフの感じがよかった ・焼き物が買える ・つめ放題があった
悪かった点 (意見概要)		<ul style="list-style-type: none"> ・体験スペースが狭い ・寒い ・雑然としている ・体験の説明が少なかった／登り窯の説明も欲しかった 	
魅力向上の為 のコンテンツ (意見概要)	<ul style="list-style-type: none"> ・旅館エリアからの送迎 ・カフェスペースがあると良い ・駐車場をつくる ・お店に看板をつけて分かり易くする ・登り窯の説明を映像で流す ・焼いているところを見せもらう ・コーヒーとクッキーをセットで出す ・子供も体験できる環境 (椅子のサイズ、スタンプ絵付け等の道具を増やす) ・絵付けの道具の種類を増やす(絵具、筆) ・値段が安価な物や、小物等の気軽に購入できるものを置く ・神楽関係の小さい焼き物 ・ペアカップ等の商品を売る際の工夫 		

⑥大森エリア モニターツアー結果概要

大森エリア (1/1)

観光イメージ (来訪前)		大森エリアの観光イメージは、「知名度(世界遺産)」が最も多く9件 次いで、「景色街並みが良い」が5件(複数回答)		
興味がわいたもの (来訪後)		大森エリアで興味がわいたものは、「世界遺産」が最も多く8件 次いで「大森のまちなみ」、「お店」が3件(複数回答)		
エリア全体の楽しみ方	キーワード(誰と)	キーワード(何を)		
	友人と	<ul style="list-style-type: none"> 観光施設を見学 まちなみを散策して楽しむ ガイドさんの案内を聞きながら、自然の中を散策したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 食べたり買い物をしたり 	
	カップル、夫婦で	<ul style="list-style-type: none"> 紅葉などを楽しみながら間歩に向かう カフェなどで休憩 	<ul style="list-style-type: none"> 大森のまちなみ 	
	女性向け	<ul style="list-style-type: none"> 古民家のカフェ 	<ul style="list-style-type: none"> かわいらしい雑貨 	
	団体ツアー	<ul style="list-style-type: none"> 石見銀山はガイド付きの団体ツアーが良い 		
	その他	<ul style="list-style-type: none"> 視覚的に楽しくなるような看板 広すぎて、歩く覚悟があるかな 夏はお化け屋敷や花火、春は花見 		
個別のスポットについて	石見銀山資料館	来訪後の満足度：6割が「あまり楽しめなかった」 再訪意向：6割が「再訪したくない」		
		良かった点 (意見概要)	<ul style="list-style-type: none"> 静かで落ち着ける 建物と庭が良かった 分かり易く、勉強になった(展示物) 笑顔で対応されていた(接客) 	
		悪かった点 (意見概要)	<ul style="list-style-type: none"> 若い人向けでない(展示物) 魅力が湧きにくい(展示物) 専門的な展示物で難しい(展示物) 	
		魅力向上の為のコンテンツ (意見概要)	<ul style="list-style-type: none"> 入場料を安く 建物の2階を使う クイズ形式や押しボタンで簡単な説明がある仕組み コンパクトにまとめてあったら、今のままで良い お土産を置く(銀や石を使ったアクセサリ等) 世界遺産スタンプラリーみたいなのがあると良い 	
	龍源寺間歩ガイドツアー (2時間コース)	来訪後の満足度：9割が「楽しめた」 再訪意向：5割が「再訪したい」		
		良かった点 (意見概要)	<ul style="list-style-type: none"> ガイドさんが詳しく説明をしてくれて、銀山の歴史が知れた 笑顔でガイドをされていた/ガイドさんのエネルギーがすごい 自然の中で散策ができた 	
		悪かった点 (意見概要)	<ul style="list-style-type: none"> 距離と時間が長く疲れた 雨が降ったため、足場が悪く歩きにくかった 	
		魅力向上の為のコンテンツ (意見概要)	<ul style="list-style-type: none"> トイレと休憩所を増やす 間歩までの距離表示のサイン(銀山マップの看板) 団体だと後ろの人は説明が聞こえないので、スピーカーが必要 歩いている途中で残りの所要時間の案内をする 今のままでよい 1時間ぐらいで習得できる簡単な石見銀山検定 銀の採掘体験 紅葉イベント 	
	大森のまちなみ	来訪後の満足度：6割が「あまり楽しめなかった」 再訪意向：9割が「再訪したい」		
良かった点 (意見概要)		<ul style="list-style-type: none"> おしゃれなカフェがあった 古いまちなみで風情がある 		
悪かった点 (意見概要)		<ul style="list-style-type: none"> お店が閉まっている 一般の家なのかお店なのか見分けがつきにくい お店とお店との距離が長く、寂しい雰囲気 惹かれるものが無い 何が名産なのかわからない 		
	魅力向上の為のコンテンツ (意見概要)	<ul style="list-style-type: none"> 一ヶ所に集中してお店を出す 飲食店、雑貨屋、お土産屋を増やす 食堂やスイーツ等、もう少し数があると選べて良い 親子で楽しめる遊び場 食べ歩きが出来る商品 龍源寺間歩関連のお土産 スタンプラリー 道沿いのライトアップ 何かメインの商品をつくる 種類を増やす 化粧品販売 		

1.4 大田市在住外国人ヒアリング調査結果（平成 28 年）

①目的

大田市に在住する外国人を対象とし、外国人から見た大田市の観光地としての魅力、地域資源、来訪時のイメージ、日常生活における問題点等についてヒアリングを行い、今後のインバウンド推進に向けた観光施策検討への基礎資料として活用することを目的とする。

②調査時期

・平成 28 年 12 月 5 日（月）

③調査項目

・大田市の観光イメージ、知人や海外へ紹介したい大田市の観光地及び魅力、訪日外国人旅行者の受入れに向けた大田市の改善事項、誘致に向けて取り組むべき事項等。

④調査対象者

・大田市在住の外国語指導助手（ALT）6 名

結果の抜粋

①大田市の観光のイメージ

キーワード	内容
Quaint	・（特に、古くて）風変わりでおもしろい、古風で趣のある
Quiet	・（動きがなくて）静かな、穏やかな （休んで）静かにしている、安静にしている、音を立てない、静粛な
Scenic	・景色の、風景の、眺めのよい、風光明媚（めいび）な
Idyllic	・田園詩（風）の、牧歌的な、すばらしい、美しい
Fantastic	・素晴らしい、空想上の場所のよう

②紹介したい大田市の観光地等

キーワード	内容
琴が浜	・クルージングが良い。その後、鞆の銀蔵でお茶を飲んだのが楽しかった。
サンバーガー	・サンバーガーはとても美味しい。洋食が食べたくないので、ハンバーガーは良い。味は母国と一緒にだがサイズが日本人向けで、島根の食材を利用しているのが三瓶ならでは良い。
さんべ温泉	・サンバーガーとさんべ温泉で、「サンベセット」と呼んでいる。
石見銀山	・大森のまちなみが良かった。「世界遺産」ということがきっかけで行ったが、日本に来るまではその事を知らなかった。
大田の海岸	・日本に来る前にネットで大田市の事を調べていたが、大田市は海岸の景色が多く出ていた。
世界遺産センター、大森	・大森は、寂れた感じで、暗くて静かで好評だった。

③外国人が大田市を旅行するにあたり、改善すべきこと

キーワード	内容
魅力的な写真でのPR	・大田市内の魅力的な写真があればと思う。
駅での案内	・出雲市駅に、大田市に関する観光案内がたくさん見られたが、温泉津駅には、温泉街までの案内がなく、現地までの行き方が分からなかった。 ・大田市全体の人気スポットや移動手段、移動時間等が英語で書いてあるパンフレットがあればいいと思う。そのパンフレットが広島、岡山、出雲、松江等があれば、来てくれる外国人はいると思う。 ・日本語表記でも、パンフレットに魅力ある写真があれば行きたい気持ちになる。
インターネット検索	・日本に来る前に、グーグルやヤフーで大田市について検索してみたが、情報があまり出てこなかった。 ・インスタグラム（SNS）で検索すると、日本語ではあるが大田市の情報がたくさん出てきた。また、島根県内の大学生の Facebook が簡単な英語で案内をしていて役立った。

④外国人の誘客へ向けた取り組みとして、力を入れるべき施策等

キーワード	内容
清掃美化活動	・大田市はすでにきれいな場所ではあるが、称賛されるまでのレベルまでに上げていくべき。
観光窓口の英語研修	・大田市駅などの観光窓口業務員への簡単な英語の研修。(笑顔で挨拶をする、簡単な英語での情報を提供できるように)
情報発信機関の設置	・大田市で体験できるものすべてを一括して情報発信できる機関の設置。(イカ釣り漁船、弓道、空手、茶道など日本らしいものも体験メニューとして提供したらいい)
石見銀山ガイドコース	・石見銀山のガイドコースの種類を増やす。

⑤外国人に大田を売り込めるもの

キーワード	内容
サンバーガー	・サンバーガーはとても美味しい。洋食が食べたくないので、ハンバーガーは良い。味は母国と一緒にだがサイズが日本人向けで、島根の食材を利用しているのが三瓶ならでは良い。
自然	・京都や大阪は「都会」なイメージ。大田市は、良い自然がある。三瓶山の自然体験アウトドアは、都会にない魅力がある。

⑥大田市観光を検索してもらうためのキーワード

キーワード	内容
Quiet Japan	・素朴な日本
自然	<ul style="list-style-type: none"> ・温泉津温泉街の沖泊の景色がすごく綺麗だった。漁火や夕日もきれい。島根県内に住んでいる外国人も、大田市の海岸に行ってみたくてよく言っている。「大田市の海は美味しい」と言っている友人もいた。大田の海岸は人気。 ・日本に来て、夜光虫を見たかった。広島で見ることが出来るという話を聞いていたが、大田市でも見ることが出来た。メインの観光と、漁火や夜光虫など、地域独自の小さな魅力もセットで情報発信すると良いと思う。 ・自然体験ができる場所が詳しく載っている案内マップがあったらいいかも。

⑦料理（食べ物）の提供に関する工夫について

内容
・大阪のホームステイ先の方が大田市出身の方で、大田の料理は「日本の中で、とても美味しい料理」と言っていた。日本海の美味しい海鮮が食べられるから、良い場所だとよく言われる。
・アウトドアが好きな人は自然志向が高いため、ベジタリアンが多いと思う。ベジタリアンの人には魚が入っていないとか、お肉が追加できる等のオプションがあるメニューの提供が良いと思う。
・メニューは英語表記が必要。(材料は何を使用しているか説明等も含めて)

⑧大田市内のサインの英語表記について

内容
・フランス語等なら、なんとなく理解ができるが、漢字は難しく理解できない。
・車を運転するドライバーとしては、英語表記がされているので良いと思う。レンタカー等、車をレンタルできること自体をほとんどの人が知らない。
・ドイツの友人が、大田市駅で英語表記がなく困ったと言っていた。英語表記が無い為、バスの乗り方がわからなかった。
・実際に母国の友人が大田市内の駅まで来て、英語表記の案内が無いので、バスに乗れないと思う。例えば、「三瓶山に行ってください」と言われても、駅から三瓶山までの行き方がわからないはず。

1.5 観光関連事業者ヒアリング調査結果（平成 28 年）

①目的

大田市新観光振興計画の策定にあたり、幅広い観光関連事業者に対し、各事業者の取り組み状況や今後の方針等、観光を取り巻く情勢について意見聴取を行い、観光施策検討への基礎資料として活用することを目的とする。

②調査時期

・平成 28 年 12 月～平成 29 年 1 月

③調査対象者

・大田市内外における観光・食事施設、宿泊施設、土産物屋、旅行・交通事業者等を対象とする。

結果の抜粋

①観光・食事施設

項目	意見	備考
今後のターゲット	<ul style="list-style-type: none"> ターゲットを絞らず広い層を対象としている。プロモーションにおいてはターゲットを設定し、それぞれの層にアピールする素材をPRする。 プロモーションにあたっては、効果を把握できる手法に留意することがポイント。（ex、WEBならばページビュー、チラシ配布ならば持参して訪れる人の数など） 	市外1 観光
	<ul style="list-style-type: none"> 「美肌」をテーマとした取り組みは平成 19 年から温泉街のまちづくりの一環で始まった。まちづくりは観光協会、商工会、旅館組合が一体となって進めている。テーマ設定には歴史的な背景を現代の人にマッチするようにアレンジが必要だと考え「美肌・姫神」というイメージづくりをしている。若い女性をターゲットしている。女性は、例えば家族の中で旅行地等の決定をする際に大きな影響力があるとともに、家族以外でのグループ旅行も盛んである。「美肌・姫神」というキーワードは女性に訴えるため。 	市外2 観光
	<ul style="list-style-type: none"> 「縁結び」を必要としている客層がターゲットとなっている。 ターゲットの年齢層は絞らず、どの年代にも受け入れられる観光地を目指している。現在の客層は 20 代～30 代の女性とその親世代が目立っている。次の世代に繋がる様に、若い年齢層をターゲットとすることも必要。 	市外3 観光
	<ul style="list-style-type: none"> 年齢層は 20～50 代の女性、ファミリー層がターゲットであるが、今後はファミリーだけでなく、親子 3 世代も対象となる。20～50 代の女性は、当館の WEB 閲覧が多い層でもある。 ナンバープレート調査にもとづくターゲット設定をしていく方針である。 	市外4 観光
	<ul style="list-style-type: none"> 個人旅行、家族旅行、教育旅行。 将来の再訪が見込まれるため、大学生（長期休み、卒業旅行での来訪）や県内の小中学生がもっと増えてほしいと思っている。 退職後旅行（ゆっくり時間がとれる人、歴史的なことに興味がある人）。 	市内1 観光
	<ul style="list-style-type: none"> 全ての層に来てもらいたいと思っている。 資料館の性質として、次世代の子どもへの教育、育成や一歩踏み込んだ知識を伝えていく。 	市内2 観光
	<ul style="list-style-type: none"> サヒメルやキャンプ場は近隣客。県内～広島ファミリー層。 埋没林は銀山や大社との連携を図りたい。 	市内3 観光
	<ul style="list-style-type: none"> 若い世代。（「砂時計」の影響） 家族連れ（春、夏の長期休みに多い）や年配層。 	市内4 観光
	<ul style="list-style-type: none"> 外国人（英語表記メニューで対応）。SNS 利用客との距離を短縮。食べログサイトとの連携、誘客を図りたい。 	市内5 食事
PR、サービス提供に関する取り組み方針・企画の有無	<ul style="list-style-type: none"> お城ファンや普段お城に来ないファミリー層へ向けたPR。 武者行列など武者をテーマにした取組み。毎年6月4日を「武者（むしや）の日」としイベントを行っている。 	市外1 観光
	<ul style="list-style-type: none"> 「美肌」「姫神」というテーマを中心に「姫ラボ」と銘打って温泉美肌に関するサービスや商品の提供を行っている。美肌温泉ボトルや温泉を使用したコスメなど。叶い石などの土産も好評。 テーマづくりやプロモーションは、一目でわかる写真やキャッチフレーズを意識している。 また、体験型観光等においても SNS の拡散などを意識して写真映えする体験を企画できるとよい。玉造温泉には足湯、温泉ボトル持ち帰り、叶い石のお守りづくりなどが体験型にあてはまる。 	市外2 観光
	<ul style="list-style-type: none"> 出雲市はメディアが多く取材にくる地域であるため、PRの取組みはあまりしていない。 出雲大社を目的地としている観光客に、他の周辺観光資源（自然、環境、新しいお土産物）で楽しんでもらうためのPRを行っている。 市の委託事業として観光案内所を、出雲市内に計5か所設置している。（駅2箇所・出雲大社駐車場・神門通り・日御碕等） 	市内3 観光

項目	意見	備考
PR、サービス提供に関する取り組み方針・企画の有無	<ul style="list-style-type: none"> 個人客誘客の取組みとしては、SNS（ツイッター、フェイスブック）の活用をもっとしていないといけない。SNSやホームページから、細かな情報の発信をしていく必要がある。 広島から来られるお客様が多いということもあり、尾道松江線沿道の道の駅との連携が強い。 お客様から観光に関する問い合わせがあった場合の対応スタッフの教育は、マニュアルがあるのですぐ答えられる訓練をしている。問い合わせの内容としては、圧倒的に出雲大社周辺の内容が多い。 	市外4 観光
	<ul style="list-style-type: none"> 広島、山口、岡山でテレビのパブ枠をもっており、スポットキャンペーンや入場券プレゼントを行っている。TVでプレゼントした入場券は回収率が高く、比較的高いPR効果があると思われる。 	市外5 観光
	<ul style="list-style-type: none"> 「健康にもいい銀山」としてPRしていきたい。ヘルスツーリズム（年配向け企画等） 	市内1 観光
	<ul style="list-style-type: none"> 全体へのサービスとしてガイド機能の充実や現地とのリンクを考えている。 現在、石見銀山の基本的な情報など子供の疑問にも応えられるような情報を提示している施設がない。全体的な知識、情報をわかりやすく提示する必要がある。 冬期（閑散期）は県内、市内の集客を望める展示をするように努めている。 	市内2 観光
	<ul style="list-style-type: none"> 学校を通じた資料配布をしている。小学校の子供の数だけ配っている。 配布範囲は市内～広島含めを、企画によって規模を変えて行っている。 	市内3 観光
	<ul style="list-style-type: none"> 現在企画展を年に4回開催している。 若い世代…ふれあい交流館での工芸体験。（メニュー造成） 家族連れ…春・夏の長期休みにあたる企画展で、ワークショップを入れた展示にするよう意識している。 年配層…体験をあまりせず、展示観覧が主な年配の客層にどう楽しんでもらうか、どう砂の魅力伝えるかが課題。 	市内4 観光
	<ul style="list-style-type: none"> 必要以上の接客は行わない。（なれなれしく接しない） ローカルフード（地元産食材の使用）を前面に出す。 	市内5 食事
	<ul style="list-style-type: none"> 発信はHPのみ。 近隣観光地の情報提供は行っている。登録時はツアーで銀山のパンフレット等をツアーガイドに配布すると喜ばれたが、最近では既に調べをして、大抵、情報も取得済みの様子。 	市内6 食事
今後、注力すべき取り組み、課題	<ul style="list-style-type: none"> ディステーションキャンペーン、不昧公没後200年、ホーランエンヤなどの契機はあるが、次の効果的な施策を継続して検討する必要がある。縁結びは今後もテーマであるが、次の新たな取り組みを行い魅力としてブラッシュアップし続ける必要があると感じている。 	市外1 観光
	<ul style="list-style-type: none"> 「美肌・姫神」のテーマは今後も継続して維持し、ブランド化を進めていきたい。ブランド化の上では、絶対にぶれないテーマ性を設定すべきと考える。（例えば、ディズニーランドでは、ミッキーマウスは普遍的なアイコンとしてずっと存在するが、ディズニーランドにおけるサービスやイベント、プロモーションのあり方は時代やターゲットにあわせて変化している。）観光地においても同様の姿勢が大切だと考える。 観光地づくりにはプロデューサー的な立場の人材が必要。また、プロデュースのためにはモニターや見回りなどによるニーズ把握・動向調査が欠かせない。 	市外2 観光
	<ul style="list-style-type: none"> 着地型の観光メニューは、有償で楽しませることが必要。出雲大社周辺（神門通り等）は、消費意欲を上げさせる商売人の活動がある。ボランティア活動は続かない。 有償で楽しむ着地型のメニューは、特に関東方面の観光客は求める。 	市外3 観光
	<ul style="list-style-type: none"> できるだけたくさんの人を案内したい。来訪を楽しんでもらい、リピーターを増やす。 ガイドの平均年齢が高く、今後のガイド養成、会の継続が課題。 遺跡の知識を伝えていくためには、ガイドの会だけの活動ではなく市がメインとなる必要があると考えている。長く続けていくための仕組みを考えていく必要がある。 	市内1 観光
	<ul style="list-style-type: none"> 銀山公園に外国人向けのインフォメーションを設け、インバウンドの窓口を一本化しては。（現在ガイドの会でガイドを頼む、協会でその他の情報を、などわかりにくい） 	市内2 観光
	<ul style="list-style-type: none"> サヒメルは、企画展以外の時期の集客が大きな課題。 運営自体がマンネリ化している状況。埋没林は、発信の工夫が必要と考えている。 	市内3 観光
	<ul style="list-style-type: none"> 展示内容の向上…今後琴ヶ浜が天然記念物に指定されれば、「触れたい、知りたい」といったニーズが増えると思う。こういった学習ニーズに応える展示内容にしていきたい。 	市内4 観光
	<ul style="list-style-type: none"> 銀山10周年企画の提案（事業者との情報交換密に） 継続事業の必要性（夜神楽以上の観光振興策は作れない。限界がある。） 地元素材の活用推奨店評価（厳しい目でのチェックが必要） 食フェスの定期開催、市内各所で持ち回り開催。 	市内5 食事
	<ul style="list-style-type: none"> 大田市のイメージをつくる食べ物、特に土産物がないのが課題。 へかやきのような郷土料理を、より食べてもらいやすくしたいと、アイデア段階だが考えている。 	市内6 食事

②市内宿泊施設

項目	意見	備考
今後のターゲット	・国内では特に年配、高齢者の方がゆっくりとすごせる施設でありたい。	施設 1
	・都会に暮らすお客様にも日本らしさを感じてもらえる施設が理想。	施設 2
	・国内観光客及び地元客（休憩・入湯）。	施設 3
	・歴史・文化の深さに興味のある方。	施設 4
	・観光客。	施設 5
	・現状と変わらない。	施設 6
	・平日の集客対策として、50～60代の客層。	施設 7
	・魚料理が自慢なので、魚好きな人。	施設 8
	・歴史好きのコアな個人客をメインとせざるを得ない。高速道路網が繋がれば、アクセスが容易になることからライトな層の利用も見込める。	施設 9
	・地域には歴史があり、一人旅（15%）の客を逃さない。神楽に特化する。	施設 10
	・広島にきている欧米人に来てもらう。	施設 11
・家族連れ。外国人は対象としない。		
・テレビで取り上げられるなどもあり、広島から増えている。広島、出雲のファミリー層がターゲット。団体客も受け入れられるような広げ方をしたい。		
・平日や閑散期の呼び込みが課題。		
集客力のある街づくり地域一体となったサービスに関する取組み等	・町並みの空き家を整備し（テナントを見つけ）温泉津温泉街の新しいスタートとすることに全力を挙げる。	施設 1
	・さんべ雪明かり。	施設 2
	・サヒメル、交流の家、さんべ荘を中心として、さんべ地域での神楽公演の開催。	施設 3
	・三瓶ヘルスツーリズム協議会の活動。	施設 4
	・“着物でふらり”で50人程度集客があった。	施設 5
	・石見銀山に関する連携。情報が入ってこないため、情報交換を行う場があれば。	施設 6
	・施設間の交流による情報交換。	施設 7
クアオルト（健康保養地づくり）への関心	・夜神楽は集客、収益上向いている。旅館予約時に、夜神楽やっているか問い合わせがある。	施設 1
	・高速道路開通に向けた国会陳情（江津市からの声掛けあり）	施設 2
	・温泉津ヘルスツーリズム（健康ウォーキング（1回/月）、おはようウォーク（毎週水曜日、日曜日））。夜神楽。	施設 3
	・特定健康指導の講座を昨年から開催している。	施設 4
	①きんさいやで健康講座②夕方に健康ウォーク・温泉③健康メニューの夕食④石見神楽鑑賞で心身を元気に	施設 5
	・企業の健康保険指導を受注できる状況にしていく。	施設 6
	・温泉や三瓶山の自然の恵みを生かした健康プログラム。	施設 7
	・温泉ソムリエの温泉学講座、島根大学医学部の協力もありロコモ予防などの講義や、筋力測定、健康体操、ノルディックウォーキングなどを実施。	施設 8
	・観光地や地域活性化のため、そして地域の健康づくりのためになると思う。	施設 9
	・クアオルトは宿泊プランにできるかも。関心あり。	施設 10
	・クアオルトに関心ある。	施設 11
	・料理について、ある程度対応可能。	施設 12
	・季節性のある食事、軽食などを、朝食やウェルカムメニューで出すようにしている。冬至にかぼちゃや大寒にはぜんざいをウェルカムで出すなど。	施設 13
・メニュー作りなど、できることがあればお話を聞きたい。		
・健康志向の料理提供は実施している。		
・関心はある。協力できる部分は協力する。		
・ぜひ協力したい。		
・料理提供など、話を頂ければ勉強する。新しい事業に取り組んでいくことはとても重要。		
・まだ、クアオルト目的の宿泊予約が入らず、効果が実感できないため関心は薄い。		
・特に考えていない。（個別メニューの提供等は難しい）		
今後、注力すべき取り組み、課題	・課題はたくさんあるが、温泉津の旅館にとっての最大の課題は後継者問題。	施設 1
	・温泉津温泉では閉店・休業の施設が増えてきている。	施設 2
	・冬期対策（集客方法）	施設 3
	・現在、仕出し対応の食事なので、旧咄々庵が利用できるか課題。	施設 4
	・インバウンドの取組は考えていない。・自社の魅力発信。・料金体系の見直し。（設備面、見直し）・地域間の連携（宿泊、観光）等	施設 5
	・今の状態を保っていきたい。・観光というよりは、企業にがんばってほしい。	施設 6
	・料理、接客、風呂（改修）をより磨いて、お客様に喜んでもらえるようにする。	施設 7
	・夜神楽で温泉津に注目してもらうよう発信し、集客につなげていくこと。	施設 8
・高速道路開通などのインフラが整ったうえで、設備投資、事業拡大。		
・西部地区としての、萩石見空港の利用促進。		
・行政と民間がマッチングを上手くすれば、観光資源はあるので延び代はまだある。		
・大田市内と温泉津との繋がりが希薄である。地元企業との連携（〇〇社の▲という商品使って）		
・これといったお土産ない。		

項目	意見	備考
今後、注力すべき取り組み、課題	<ul style="list-style-type: none"> ・波根という地域を目的地として来てもらえる仕組みを作りたい。 ・日中過ごせるような仕組みも作りたい。釣りができるなどということを考えている。 	施設9
	<ul style="list-style-type: none"> ・1年、2年単位の目標ではなく、数年単位でプランをたてていく必要がある。 ・専門家を呼んで、リーダーシップをとってもらわなければならない。地元の人を巻き込んで引っ張って行ってくれるプロの協力が必要 ・お金をかければできることなど、「どこでもできること」はする意味がない。(時間や手間をかけて、ここでしかできないことをするべき) 	施設10

③市内土産品販売店

項目	意見	備考
今後のターゲット	・フリーの個人客。	施設1
	・歴史や自然、温泉などを通して健康を志向するお客様がターゲットになっていくと思う。しかし、あくまでも漠然としたものであり、明確なものではない。	施設2
	・既存の「年齢・性別」によるターゲティングはしない。	施設3
	・「映画が好き」「音楽が好き」など点を定めて集まった方でコミュニティをつくっていききたい。	
	・今までも、個人で来店くださるお客様を大切にしてきた。今後も変わらない。	施設4
	・50～70代が主な客層だったが、30～40代へシフトして行きたい。	施設5
	・来訪客に対して対応するという、受け身の姿勢ではあるも、お客様との会話を大切に再訪してもらえるような対応接客を心がける。お正月も本当は休みとしたいがお客様目線で来訪した方ががっかりしないよう年中無休対応。	施設6
	・ひとり旅であれ、ふれあいを求めて旅しているので「来てよかった」を残す接客を目指す。簡単な観光案内もしている。	
・「日本の暮らしを大切にする方」	施設7	
・ターゲットは特にないが、アクセサリ販売なので割合は女性が多い。	施設8	
PR、サービス提供に関する取り組み方針・企画の有無	・観光シーズンには、新聞広告を利用し、来店を促せる。	施設1
	・地元の食材(石見ボーク・大山地鶏・魚)などを今後も提供していく。	施設2
	・Facebookなどによる1対1の信頼関係をつくることに重点をおく。	施設3
	・広告掲出などは全体の認知度向上のために活用する。	
	・TVのPRは継続していく。	施設4
	・大社店も含め、「るるぶ」や「まっぷる」の掲載。(1ページ掲載予定(大社店))	
	・FacebookなどのSNS、購入者体験者へのDM。	施設5
・お茶出し、観光案内、店舗内に掲示している石見銀山の写真を用いた説明、常にコミュニケーションを意識し懐かしさを感じてリピーターとなるお客様もあり。再訪された方にはサービス品を差し上げるなど追加のサービスを提供。	施設6	
・テレビも含め、広報を丁寧にする。メディアでの誤解がないように注意する。メディアでの誤解がないようにする。	施設7	
・インターネット配信。		
・方針としては、なるべく安価で銀製品を提供したい。観光地だから高い販売価格ではなく、お買い求めしやすい価格で提供。料金や接客でおもてなしが伝わるようでリピーターも多い。		
今後、注力すべき取り組み、課題	・山陰道開通に伴い、集客減になることは避けられない。	施設1
	・今すべきことは、来るべき時を踏まえて、対策を検討すること(行政も含めて)。	施設2
	・高速度道路は大きな問題だが、そればかり話していても前へ進まない。	
	・季節ごとの新しい取り組み、メニューの魅力向上などに取り組んでいく。	施設3
	・広告掲出などによる面の後方ではなく、1対1の信頼関係から広げていく広報をすすめた	
	・東京オリンピックの年をめどに販売拡大に向けて取り組む。	施設4
・山陰道の開通、道の駅の開店、しっかり対応してもらいたい。		
・国道9号の利用者は確実に山陰道に移行していきだろう。ただ、山陰道の交通量自体は増えるだろうから、そのことをプラスに考え、変えていくための対策をしていく。	施設5	
・これからは、豊かでお金を持っている人が大きな移動をする。その方たちを取り込むためのPRや、インターネット等はクオリティを持って発信していきたい。		
・温泉津としての将来ビジョンが必要。そこにどのように関わられるか考えていきたい。	施設5	
・10周年以降のお客様の動向。	施設6	
・冬の閑散期の対策。		
・石見銀山・大森地区は17時には閉まる店舗が多いので夜には人がいなくなる。それでも歩いている方がいるのでお店をあけているが、他店を足並みが揃わないと人も来ない点。		
・インターネット事業、アパレル以外の分野としてスキンケア事業拡大等の検討。		
・人材育成。(採用の段階から)		

④市内交通事業者

項目	意見	備考
運行ルートにおける観光ニーズの有無	・観光のニーズは今後も増えると思う。ここ数年、明らかに旅行会社を通じて、年配の人の予約が増えた。今後もこの傾向は続くと思う。若い人はもっぱら自家用車やレンタカーを使うと思われる。あまり若い人のタクシー利用はない。	事業者 1
	・間歩へ行くのに銀山公園までしか行けないことを考えると、ほとんど受けていない。	事業者 2
	・広島のお客さんは、日帰りで大森観光するパターンがメリットとなっているようである。日帰りの安さと、時間も一日で可能というところであろう。	事業者 3
	・大田市駅までは大半が帰省客。観光はほとんどいない。	事業者 4
多言語による接客対応・スタッフ教育	・スマホを利用している。現在 10 か国に対応するアプリを運転手に全て入れさせている。全員使い方をマスターしている。	事業者 1
	・全くしていない。スタッフ教育もしていない。今後もする予定はない。	事業者 2
	・観光地から外国人が乗車する場合は、施設で外国語を話すスタッフを頼る。	事業者 3
	・会社で英語、中国語の指先会話ができるものを準備している。外国人はアジア系の方が多いが、あまり使っていない	事業者 4
施設受入れ整備 (多言語対応サイン・パンフレット・Wi-Fi 整備等)	・浜田管内で若手社員を中心に英会話の勉強会が行われている。浜田での開催なので、なかなか出席できない。	事業者 1
	・英語の車内放送は一部行っているものの、駅構内の放送は実施できていない。	事業者 2
	・英単語集が作成され、各駅に配布している。今後、その内容もブラッシュアップする予定である。	事業者 3
	・米子支社管内で順次多言語表記に変更している。(英・中)	事業者 4
施設受入れ整備 (多言語対応サイン・パンフレット・Wi-Fi 整備等)	・スマホアプリのみ。	事業者 1
	・今のところなし。施設の外国語パンフレットを集めて車内に設置し、求められれば渡す程度。	事業者 2
	・バス停の時刻表を貼る場所に、プラスして外国語版を貼るスペースが確保できない。	事業者 3
	・大田市駅のバス停は駅構内に張り出すことも可能なので、現在作成中である。	事業者 4
施設受入れ整備 (多言語対応サイン・パンフレット・Wi-Fi 整備等)	・Wi-Fi は、大田バスセンター設置済み。	事業者 1
	・銀山号車内に Wi-Fi 設置済み。	事業者 2
	・米子支社管内で順次多言語表記に変更している。(英・中)	事業者 3
	・Wi-Fi 整備の予定は今のところない。米子、鳥取など大きい駅は整備済み。	事業者 4

⑤市外旅行事業者

項目	意見	備考
主な客層の変化	・現在は登録時の熱気がない。登録 10 周年になったからといってあわててプロモーションをしてもすぐに効果が出るわけではないので、息の長い取り組みが必要だったのではないかと感じる。	事業者 1
	・地道な取り組みをすべき。明日の 40 人の集客よりも 10 年後の 1 万人の集客をめざすべき。	事業者 2
	・大森地区は、観光と地元住民の住環境保全の両面を両立させようとして失敗していると感じる。地区内の交通量が増加することに対して車の乗り入れを制限するなど、住環境保全のための規制を強化したために、観光客の利便性が低下した。石見銀山のターゲットは、高い年齢層であるため車の乗り入れ規制など交通弱者の利便性を損なうような施策をするべきではないと考える。高齢者、バリアフリーの対応は必須だと考える。	事業者 3
大田市を含めた旅行商品の有無、旅行商品を企画する場合の課題	・石見銀山登録時当初は、若い方の団体ツアー参加もあった。	事業者 1
	・現在は、登録前の客層に戻っており、年配の方が多い。	事業者 2
	・石見銀山が好きでツアーに参加する人の割合は少ない為、銀山のみのツアーは設定できない。	事業者 3
大田市を含めた旅行商品の有無、旅行商品を企画する場合の課題	・石見から大田方面への観光客層に変化は見られなかった。	事業者 1
	・遷宮以降の出雲大社では観光客が減少していないと感じるが、石見銀山は、登録から観光客が減っていると感じる。	事業者 2
	・らとちゃんバスは、利用促進に向けて現地での着地ツアーなどの着地型商品を準備するなど、現地で楽しめる企画を用意すべき。交通と着地型の企画をセットで商品化することで採算性の課題もクリアできると考える。PR チラシには交通手段しか示されておらず、現地で楽しめるイメージがまったく伝わってこない。	事業者 3
大田市を含めた旅行商品の有無、旅行商品を企画する場合の課題	・また、らとちゃんバスのコースも鉄道駅だけではなく、出雲空港も経由地に含むべき。らとちゃんバスのターゲットは、自動車を利用しない首都圏の旅行者であるため、飛行機や JR で来訪した客層の利用を誘致すると効果的だと考える。	事業者 1
	・イメージプロモーションについても、銀山の間歩と大森のまちなみは全く別のターゲットにウケる内容なので、切り離して売り込むべき。大森のまちなみは、そぞろ歩きが楽しめる若い女性が十分にターゲットになる。銀山は学識を広げたい高い年齢層に受ける素材なので、大森のまちなみとごちゃまぜに売り込むとイメージプロモーションに失敗する。伝わりやすいイメージづくりに留意すべき。	事業者 2
	・また、らとちゃんバスのコースも鉄道駅だけではなく、出雲空港も経由地に含むべき。らとちゃんバスのターゲットは、自動車を利用しない首都圏の旅行者であるため、飛行機や JR で来訪した客層の利用を誘致すると効果的だと考える。	事業者 3

項目	意見	備考
大田市を含めた旅行商品の有無、旅行商品を企画する場合の課題	<ul style="list-style-type: none"> 大田市の旅行コースを設定する際に、滞在する時間をどれだけ取れるかが重要となる。例えば石見銀山を観光した後に、その周りに観光施設が無ければ出雲市や浜田市等に流れてしまうのが現状。 石見銀山を旅行コースに設定すると、参加者に「魅力を伝える」「満足度を高める」ためには滞在時間を長く設定しなければならない。滞在時間が長くなる観光施設には、休憩場所、食事場所、お土産の充実が必要となる。観光施設として魅力があれば、滞在時間が長くなることはネックにはならない。 石見銀山は、「見て感動する観光地」ではなく「歴史を理解しながら滞在する観光地」である為、ガイドが利用できることをもっとアピールしていく必要がある。 食事は旅行コースを設定する際に大切になってくるが、大田市内は団体客を受け入れる食事処が少ない。出雲市や浜田市等で食事をとるというコースになる為、大田市での消費額は少なくなる。 世界遺産登録から10年となるが、民間が盛り上がっている様に感じられない。観光関連の施設が共通の認識をもって活動していくことが必要。 「桜の名所」等の四季の観光名所があれば、銀山地区以外でも大田市で旅行コースの設定ができる。 	事業者2
	<ul style="list-style-type: none"> 浜田に宿泊して石見銀山に立ち寄るコースがあるが、石見銀山地内では歩く距離が長いいため旅行募集をするエージェントから嫌厭される。銀山地内ではレンタルサイクルやペロタクシーなどの移動手段があるが、募集旅行の客層は比較的年齢層が高いため、自分で運転するレンタルサイクルは高年齢層には不向きだと判断されている。唯一、紅葉の季節だけは「歩く観光」が嫌厭されない。ゴルフ場などで使われる移動用カートなどの移動手段があれば望ましいと考える。 大田市内では小豆原埋没林公園（又は石見銀山）から和田珍味に立ち寄るコースが主流 その他の観光施設に立ち寄ることもあるが、例えば仁摩サンドミュージアムなどは見どころが少ないため不人気。同じ仁摩エリアであれば、琴ヶ浜のほうが人気は高い。しかし、琴ヶ浜はバスでの立ち寄りが困難である。 	事業者3
インバウンド向け旅行商品開発	<ul style="list-style-type: none"> 大田市は、アジアではなく欧米がターゲットになると考える。 次々と施設を回る従来の団体旅行のような旅行ではなく、じっくりと楽しみ体験する体験型観光の時代。体験型観光はインバウンドだけでなく、日本人にもニーズが高い。 体験型の内容は、紙漉きは人気が高い。着物を着て歩く体験は特定の場所では人気が高い。(ex) 着物を着て出雲大社見学等) 人気がある体験であっても、どこでもウケるとは限らない。文化的な必然性やその土地にあった背景などと非日常性が必要。 	事業者1
	<ul style="list-style-type: none"> 広島発の近隣観光ツアーを行っている為、そのツアーをインバウンド向けの商品としていきたい。 アジア系の観光客は、団体客が多く現地で旅行パックを購入して来ている場合が多い。 欧米系の観光客は、バックパッカーが多く、お金を使わない旅行形態である為、ツアーに参加する人が少ない。 アウトバウンドは容易に計画できるが、インバウンドはハードルが高く見通しが立たないのが現状。 	事業者2
	<ul style="list-style-type: none"> インバウンド対応は、受け入れ施設の体制が課題である。石見地域では40～50規模の受け入れ体制を備える宿泊施設が少ないため、加えて外国人対応では言葉の問題もあるため、受け入れ施設のスタッフが嫌がるが多い。 西部県民センターの主催で、インバウンドのおもてなしセミナーを開催したが、参加者が少なくインバウンド受け入れの機運は低いと思われる。 	事業者3

2 既存事業の進捗状況の確認及び検証

2.1 既存事業の進捗状況の確認及び検証

平成21年6月に策定した「大田市新観光計画」（以下、「既存計画」という）の進捗状況について、既存計画の基本的な柱ごとに検証を行った。検証は、施策又は各事業の関係各課、事業者、団体等へヒアリングを行い、結果について下記例の整理表へまとめるものとした。

【既存計画の施策の方針構成の整理】

エリア	既存計画の基本的な柱
石見銀山エリア	(1) 人・環境にやさしい石見銀山遺跡へ (2) 他地域との連携 (3) 新たな魅力の創出 (4) 新たな町並み利用策の検討 (5) 温泉津・仁摩地区の強化 (6) 「穏やかさ」と「賑わい」が両立する石見銀山遺跡へ
三瓶山エリア	(1) 温泉資源を活用した健康づくりの拠点化 (2) 地域資源活用交流促進施設の整備 (3) アウトドアの拠点づくり (4) 教育旅行の推進 (5) 三瓶山の景観の保全と市有地の有効活用 (6) 公社所有の観光関連施設取得及び管理
大田市共通	(1) 石見銀山遺跡と三瓶山をはじめとする観光関連施設を結ぶ二次交通の整備 (2) 的確な情報発信 (3) モデル観光ルートの設定・提示 (4) プリペイドカードシステムの導入 (5) 推進体制 (6) おもてなしの観点から観光振興

【施策の概要・進捗状況等の検証・課題の抽出 整理表(例)】

(1) 人・環境にやさしい石見銀山遺跡へ ←

(既存計画策定時の課題を整理)

課題
「分かりにくい遺跡をどのように伝えていくか」、「高齢者や障がい者等の龍源寺間歩までの移動手段」、「土産屋、飲食店、特産品店の不足」、「外国人旅行者への対応」等

(基本的な柱による施策ごとの事業概要を整理)

項目	No	具体的対策	実施主体	実施状況
小型ラジオを利用した案内システムの導入	1	・わかりにくい遺跡といわれる石見銀山遺跡について、分かりやすくする方策として、携帯ラジオを利用した案内システムの導入やQRコードなどIT技術を利用した方策を検討する。	観光協会	○
石見銀山パークアンドライド	2	・住民生活を守り、結果的には快適な観光をすることにつながるパークアンドライドについて引き続き実施をしていく。	行政 観光協会 住民 事業者	○

(事業の進捗状況を整理) ○:実施し、継続中 △実施に向けて取り組んでいるが課題が残る ー:実施までに至っていない

実施	<ul style="list-style-type: none"> ・事業(No)別に実施状況を調査。実施出来ている取組みについて[実施欄]へ記載
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・事業(No)別の取組み状況等から、事業に対する課題を抽出し、[課題欄]へ記載

2.1.1 石見銀山エリア（大森・温泉津、仁摩地区） 進捗状況及び検証結果

（1）人・環境にやさしい石見銀山遺跡へ

課題	
「分かりにくい遺跡をどのように伝えていくか」、「高齢者や障がい者等の龍源寺間歩までの移動手段」、「土産屋、飲食店、特産品店の不足」、「外国人旅行者への対応」等	

項目	No	具体的対策	実施主体	実施状況
小型ラジオを利用した案内システムの導入	1	・わかりにくい遺跡といわれる石見銀山遺跡について、分かりやすくする方策として、携帯ラジオを利用した案内システムの導入やQRコードなどIT技術を利用した方策を検討する。	観光協会	○
石見銀山パークアンドライド	2	・住民生活を守り、結果的には快適な観光をすることにつながるパークアンドライドについて引き続き実施をしていく。	行政 観光協会 住民 事業者	○
環境対応型車両の導入	3	・「自然との共生」を目指し、世界遺産センターと大森地区を結ぶ路線バス、世界遺産センターの公的車両について環境対応型車両の導入検討を行う。	行政 事業者	○
龍源寺間歩へのアクセス	4	・路線バス廃止により、障がい者、高齢者、小さな子ども連れの人等、歩くことが困難な人を優先した環境配慮型車両を利用する新たな輸送手段の導入検討を行う。	行政 事業者 地域住民	△
「歩く」から「歩いて楽しい」観光へ	5	・貸自転車、ベロタクシーなどを利用した、快適に散策できる仕掛けづくりを行う。電動機付自転車の台数増の検討を行う。	行政 観光協会 事業者	○
	6	・龍源寺間歩へ至る遊歩道や市道沿いに点在する遺跡への誘導、清水寺前休憩所等の休憩スポットの整備を行う。	行政 観光協会 事業者	○
来訪者に「優しい」石見銀山遺跡へ	7	・龍源寺間歩へのアクセス、食事、土産、トイレ、案内等の直接的な「おもてなし」と真心のこもった「おもてなしの気持ち」の充実を図り、来訪者にとって「優しい」石見銀山遺跡を目指す。	行政 NPO 住民	△
外国人来訪者への対応	8	・外国人への対応として多言語のパンフレット作成及び案内看板等の整備を行う。 ・ガイド機能の充実のためボランティア団体への活動支援を検討する。	行政 観光協会 事業者	△

○：実施し、継続中 △実施に向け取り組んでいるが課題が残る ー：実施までに至っていない

実 施	○ 分かりにくい遺跡を伝える対応として、石見銀山ガイドの会によるツアーのほか、個人自由型の周遊に対応するため小型案内システムが導入され、個人の旅行嗜好に応じた案内が展開されている。小型案内システム（携帯ラジオ）については、100台を導入し、ガイド箇所、多言語機能の更新を図りながら、現在では、4ヶ国語対応（日本語・英語・中国語・韓国語）にて運用している。（No.1）
	○ 環境負荷の少ない観光モデルの取り組みとして、パークアンドライドを継続している。（No.2）
	○ 貸自転車について、民間事業者の取り組みにより電動機付自転車のサービス提供台数は増加傾向にある。ベロタクシーは、創業時からの保有台数を維持するとともに、乗車料金の価格改定等、利用者への利便性向上等サービスの充実を図っている。（No.5）
	○ 遺跡の活用については「史跡石見銀山遺跡整備基本計画」に基づいた1期計画（平成18年～25年）が終了し、保全及び活用に向けた点在する遺跡への誘導として遊歩道やサイン、休憩所等の整備により、安全性・快適性の確保と史跡理解の一助となっている。（No.6）
	○ 大森町の住民は、住民憲章に掲げる「おだやかさと賑わいの両立」を目指し、石見銀山世界遺産登録後の来訪者の急増という変化への柔軟な対応がなされ、現在では、住民団体「いもむす」を中心とする家の前への装花、「石見銀山ガイドの会」による道路のごみ拾い、また、井戸水などを利用した打ち水や軒先での休憩所の提供等、地域挙げて来訪者をおもてなしする積極的な活動が見受けられる。（No.7）
	○ 世界遺産登録前の平成17年、登録後の保全と活用を検討する目的で、市民と行政からなる「石見銀山協働会議」が設立され、平成22年には石見銀山基金事業の運営など任意団体では実施できない事業に取り組むため、NPO法人石見銀山協働会議に発展。平成23年より石見銀山基金の活用事業が始められ、石見銀山に関するガイド養成講座、大森町住民憲章看板の設置、町並み清掃活動等のほか、市内の小中学校での石見銀山学習など、地域が主体となった取り組みが展開されている。（No.7）
	○ 今後増加が見込まれる訪日外国人旅行者への対応として、英語、韓国語、中国語（簡体字・繁体字）について多言語パンフレットを作成し、配布しているほか、多言語案内看板については平成28年度より整備が実施されている。（No.8）

課題

- △ 龍源寺間歩までのアクセス手段として、環境配慮型の電気バス導入に向けた社会実験を実施する等、検討を行ったが、採算性の課題等、実施に至っていない状況となっており、高齢者や障がい者、子ども連れの方等に対する観光環境について課題が残っている。(No.4)
- △ 不足する土産屋、飲食店、特産品店等のおもてなしの対策として、空き家の紹介システム等の構築が求められていたが、実施には至っていない。また、今後、石見銀山観光の満足度の向上に向けて、大森の町並みと併せて、来訪者の消費意欲を満たす、新規出店を促進する推進体制の構築が必要となる。(No.7)
- △ 今後、増加が見込まれる訪日外国人旅行者へのおもてなしとして、外国語対応に関するスタッフ研修や対応できるガイド会員の拡充が課題となっている。また、大久保間歩ツアーや世界遺産センターには、専任の英語、中国語、韓国語の対応が取れるスタッフを配置するなど、受け入れ体制の質の向上が求められている。(No.8)

(2) 他地域との連携

課題	
近隣地域や近隣の世界遺産保有自治体との広域連携により、誘客推進を図る。	

項目	No	具体的対策	実施主体	実施状況
他地域との連携	1	・近隣の世界遺産保有自治体（広島県、広島市、廿日市市）との連携強化より、3つの世界遺産を巡るツアーの醸成を図る。	行政 観光協会 事業者	△
	2	・山陰文化圏（鳥取県西部・島根県東部）、鉄の文化圏（雲南地域）、松江・出雲圏、石見地方との連携強化を図る。	行政 観光協会	△

○：実施し、継続中 △実施に向け取り組んでいるが課題が残る ー：実施までに至っていない

実施

- 石見交通株式会社より、石見銀山号（高速バス）を運行し、2便/日により、広島市と大田市を結んでいる。また、旅行エージェントによる中国地方の世界遺産を巡るツアーが造成されている。(No.1)
- 広域連携については、山陰インバウンド機構や山陰観光連盟、島根県観光連盟、石見観光振興協議会等の観光関連団体と連携を図っている。(No.2)

課題

- △ 世界遺産ツアーの造成について、石見銀山観光は「歩く観光」により、周遊に時間を要し、他の世界遺産を巡るツアーとして組み込むことが難しい状況となっている。(No.1)
- △ 松江・出雲圏との連携や広島県との連携による誘客が十分に図れていない状況にあり、国宝松江城や出雲大社、厳島神社等を訪れる観光客をいかに取り込んでいかが課題となっている。(No.2)

(3) 新たな魅力の創出

課題	
近隣地域や近隣の世界遺産保有自治体との広域連携により、誘客推進を図る。	

項目	No	具体的対策	実施主体	実施状況
新たな魅力の創出	1	・世界遺産センターのフルオープンを契機として、旅行エージェントへの営業活動、PR等を行い、関係部署との連携を図る。	行政 事業者	○
	2	・市道仙ノ山線の舗装、眺望ポイントへの遊歩道、四阿の設置整備、清水谷精錬所跡から仙ノ山への遊歩道整備を進める。	行政 観光協会	○
	3	・大久保間歩周辺への環境対応型車両を導入したツアー実施の検討を行う。	行政 観光協会	ー
	4	・地元住民や地元事業者による井戸水を利用した打ち水や軒先での休憩スポット提供などの来訪者へのおもてなしから、来訪者にも環境にもやさしい石見銀山の実現を図る。	住民 事業者 NPO	○

○：実施し、継続中 △実施に向け取り組んでいるが課題が残る ー：実施までに至っていない

実施

- これまで、添乗員付きの団体ツアーを造成しているエージェントを軸に営業活動を実施。近年では、添乗員付きの団体ツアーの減少に伴い、団体ツアーの営業と併せて、個人客向けのエージェントへの営業展開を実施している。(No.1)
- 平成20年以降より、本谷地区から石銀地区の遊歩道の整備を進め、仙ノ山山頂から佐毘売山神社までの周遊が可能となっている。また、新たな魅力の創出として、仙ノ山の縦走ルートの整備を行い、清水谷精錬所までの新たなアクセスルートが出来ているほか、今後は仙ノ山の山頂のビューポイントの整備等山頂整備も進められていく予定となっている。(No.2)
- 大森町の住民団体「いもむす」を中心とする家の前への装花、「石見銀山ガイドの会」による道路のごみ拾い、また、井戸水などを利用した打ち水や軒先での休憩所の提供等、地域挙げて来訪者をおもてなしする積極的な活動が見受けられる。(再掲) また、NPO石見銀山協働会議にて「クリーン銀山」に参加するボランティア(事業者や自治体)のコーディネートを実施している。(No.4)

課題

- △ 落石による危険箇所があるため、歩行者の安全を第一に対策を十分に取っていく必要がある。(No.2)
- － 石見銀山世界遺産登録5周年事業により、電気バスによる「仙ノ山eピークルツアー」を実施。参加者の満足度は非常に高かったものの、採算性の課題が残り、事業の継続には至っていない。訪れる高齢者や障がい者の交通弱者の方たちに向けた対応として、色々なアクセス手段を用意し、アクセスの選択肢は増やしておく必要がある、採算性の課題などをどのようにクリアしていくかが課題となっている。(No.3)

(4) 新たな町並み利用策の検討

課題				
不足している土産物屋、飲食店等の整備について、空き家の紹介システムを構築等の誘導手段及び出店に関する調整指針を整える必要がある。				

項目	No	具体的対策	実施主体	実施状況
新たな町並み利用策の検討	1	・土産物屋・飲食店の不足に対応するため、町並みの空き家利用について、地元住民、物件所有者、経済団体、NPO法人等との協議の場を設け、仕組みづくりを検討する。町並みと調和しつつ、やる気のある事業者への支援を行う。	行政 住民 NPO	－

○：実施し、継続中 △実施に向け取り組んでいるが課題が残る －：実施までに至っていない

実施

- NPO納川の会では、大森の定住人口の増加を目指し、空き家の利活用の取組みがされており、平成15年発足後、実績は4件となっている。(No.1)

課題

- － 空き家活用の推進に向けた空き家データ等の把握について、データベースとなるシステム構築が出来ていない状況となっており、課題として残っている。(No.1)

(5) 温泉津・仁摩地区の強化

課題				
温泉津・仁摩地区における温泉や自然及び沖泊や軋ヶ浦の史跡等、価値の高い資源の有効活用を図り、新たな石見銀山遺跡の魅力の提供に繋げる。				

項目	No	具体的対策	実施主体	実施状況
温泉津・仁摩地区の強化	1	・世界遺産に指定された温泉津・仁摩地区について、新たな誘客を図るために、旅行エージェント、石見銀山ガイドの会とタイアップし、新たな旅行商品の販売を働きかける。	観光協会 事業者	－
	2	・温泉津温泉については、地理的要因から駐車場不足が懸念されており、温泉津温泉版パークアンドライドの導入について検討を行う。	行政	－
	3	・温泉津温泉における簡易的な宿泊予約のシステム化の検討を行う。	観光協会 温泉旅館組合	○
	4	・観光資源である海岸線を利用した取組み（マリンスポーツ、釣り、海岸美化等ボランティア）を図る。	行政 NPO 事業者	△
	5	・大田市の環境を活かした地産地消による地域の産品を取り込んだメニュー開発など、「食」の新たな展開を図る。	行政 事業者	○
	6	・石見銀山とともにサンドミュージアム及びその周辺が一体となった情報発信と観光客の受け入れ対策を強力にする。施設については、平成3年オープンより17年が経過し、老朽化が目立っており施設リニューアルが必要である。(仁摩サンドミュージアムの活用)	行政 事業者	○
	7	・歴史ある寺社仏閣、温泉津焼などの特色を最大限利用するために世界遺産ゾーンとの連携のほか、その他市内観光施設との連携を図る。三瓶自然館、三瓶小豆原埋没林、石見銀山世界遺産センターの各施設間での共通イベントの開催、合同PR等各施設が一体となった戦略を練る。(温泉津地区の活用)	行政 観光協会 住民	－
	8	・一級の観光資源として位置づけられる石見神楽について観光でも簡単に見ることが出来る環境を整える。また、田植えびやし、花田植え、ヨズクハデ、石見銀山天領太鼓などの市内の優れた文化を観光資源として位置付け活用を図る。(伝統芸能・文化の活用)	行政 温泉旅館組合 地元団体	○

○：実施し、継続中 △実施に向け取り組んでいるが課題が残る －：実施までに至っていない

実施	<ul style="list-style-type: none"> ○ 温泉津温泉では、宿泊予約状況をホームページで確認し、宿泊予約ができるシステムを構築し、平成 28 年から銀の道商工会により運用が開始され、宿泊予約に関する利便性の向上が図られている。(No. 3) ○ 石見銀山世界遺産登録 5 周年事業による沖泊～鞆ヶ浦漁船クルーズツアーや、波根旅館組合を中心に波根・久手海岸エコアドツアーを実施。現在は、鞆ヶ浦クルージングが民間事業者により実施されている。(No. 4) ○ おおだブランド認証商品制度により、大田市全域を対象とし、おおだブランドの推進を図っている。また、商品の開発については、大田市産業企画課にて販路開拓のアドバイザーを委託し、業界の動向やトレンドを把握して、事業者へアドバイスを実施している。(No. 5) ○ 指定管理者制度を導入し、民間運営にて対応し、部分的な改修事業は、必要に応じて大田市観光振興課にて実施している。(No. 6) ○ 温泉津温泉における夜神楽について補助金を活用し、事業を継続している。平成 24 年以降、毎週土曜日に公演されており、年間 5～6 千人が拝観し、来訪者の満足度向上に大きく寄与している。平成 27 年「文化遺産を活かした地域活性化事業」として、ヨズクハダや銀山での活動をはじめとする市内の文化・芸能等の撮影を行い、写真等の記録について保存し、カレンダーやポスターなど広報・PR面でも活用されている。(No. 8)
課題	<ul style="list-style-type: none"> － 石見銀山ガイドの会にて、【銀山街道】温泉津沖泊コース、鞆ヶ浦コース、【町並み歩き】温泉津コースのガイドを実施しているが、旅行エージェント及び石見銀山ガイドの会との連携した取組みは行われていない状況となっている。今後、平成 27 年の日本クアオルト協議会の加盟を契機として、健康づくりプログラムの構築を図り、三瓶山、石見銀山、温泉津温泉、琴ヶ浜などの連携し、ヘルスツーリズムを核とした新たな旅行商品の営業・PRを図っていくこと等が求められる。(No. 1) － 温泉津温泉について、温泉津温泉の各旅館宿泊客専用の駐車場は確保されているものの、まち歩きなどの観光客が楽しめる環境づくりの課題が残っている。宿泊客以外の来訪者の増加、宿泊以外の消費を促進していくためにも、まち歩きで来訪する観光客が楽しめる環境づくりを継続して検討していく必要がある。(No. 2) △ 海岸美化等のボランティアについては、自治会により清掃活動を行ってきたが、地域住民の高齢化により活動が困難となってきており、今後、継続して美化活動等に取り組める体制づくりの構築が求められている。(No. 4)

(6) 「穏やかさ」と「賑わい」を両立する石見銀山へ

課題	温泉津・仁摩地区における温泉や自然及び沖泊や鞆ヶ浦の史跡等、価値の高い資源の有効活用を図り、新たな石見銀山遺跡の魅力の提供に繋げる。
----	--

項目	No	具体的対策	実施主体	実施状況
「穏やかさ」と「賑わい」を両立する石見銀山へ	1	・石見銀山観光を考えるうえで、地元住民との協働で進めていく。	行政 住民 NPO	○

○：実施し、継続中 △実施に向け取り組んでいるが課題が残る －：実施までに至っていない

実施	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大森町の住民は、住民憲章に掲げる「おだやかさと賑わいの両立」を目指し、石見銀山世界遺産登録後の来訪者の急増という変化への柔軟な対応がなされ、現在では、住民団体「いもむす」を中心とする家の前への装花、「石見銀山ガイドの会」による道路のごみ拾い、また、井戸水などを利用した打ち水や軒先での休憩所の提供等、地域挙げて来訪者をおもてなしする積極的な活動が見受けられる。(再掲) (No. 1) ○ 世界遺産登録前の平成 17 年、登録後の保全と活用を検討する目的で、市民と行政からなる「石見銀山協働会議」が設立され、平成 22 年には石見銀山基金事業の運営など任意団体では実施できない事業に取り組むため、NPO法人石見銀山協働会議に発展。平成 23 年より石見銀山基金の活用事業が始められ、石見銀山に関するガイド養成講座、大森町住民憲章看板の設置、町並み清掃活動等のほか、市内の小中学校での石見銀山学習など、地域が主体となった取り組みが展開されている。(再掲) (No. 1)
課題	<ul style="list-style-type: none"> － 平成 18 年に策定された「石見銀山行動計画」が十分に進められていない状況にあり、計画に沿った取り組みが希薄となっている。推進体制を抜本的に見直す必要がある。(No. 1)

2.1.2 三瓶山エリア 進捗状況及び検証結果

(1) 温泉資源を活用した健康づくりの拠点化

課題				
三瓶山の豊富な温泉資源を活用した温泉療法による新たな健康づくりの拠点化を図る。				
項目	No	具体的対策	実施主体	実施状況
地域資源活用交流促進施設（国立公園三瓶センターまたは三瓶ヘルスセンター）の整備等	1	・エコロジー米、野菜、わさび、山菜等の地域産品と結びついた生鮮品や加工品の販売スペースを確保する。温泉、自然、神楽等の伝統文化等を組み合わせた温泉療法活用型の交流施設を設ける。三瓶温泉の健康づくり拠点として役割を明確化させる。	行政 観光協会 三瓶ヘルスツーリズム協議会 事業者	△
市内医療機関（大田市立病院等）との連携	2	・温泉を活用した治療、機能回復リハビリテーション、成人病予防の指導実演、健康診断の実施の場、専門医の指導するメニュー、健康回復プログラムの開発等、上記整備予定施設により健康づくりシステム環境と体制を整える。		△
宿泊施設（さんべ荘、新施設）との連携	3	・健康増進、元気回復プログラムを作成し、さんべ荘等の宿泊施設、整備予定施設との連携により、リフレッシュや癒しの空間や滞在による時間を演出した三瓶温泉を創出する。		△
薬膳等を提供する食事療法	4	・三瓶山に豊富に存在する四季折々の山野草を利用した本格的な薬膳料理の提供を行う。食事療法を三瓶温泉の大きな役割として位置付ける。		—
森林浴・登山との組み合わせと連携	5	・自然環境や木から発散されるフィトンチッド効果による森林浴と温泉浴を効果的に組み合わせたコースづくりを進める。		○
三瓶や石見銀山の自然や歴史に関する学習との組み合わせと連携	6	・石見銀山や三瓶山の歴史・文化や自然を「石見銀山学」、「三瓶学」として、利用者の興味を膨らませ、心身の機能回復に貢献するためのプログラムやコースを設定する。		△
ガーデニングセラピー、アロマセラピーの機能と組み合わせ・連携	7	・健康づくりの拠点として、温泉と医療の複合のほかに心身のリフレッシュに効果のある各種取組みを組み合わせることで楽しく快適な温泉療養の場としての機能強化を図る。		○

○：実施し、継続中 △実施に向け取り組んでいるが課題が残る —：実施までに至っていない

実施	○ 宿泊施設では、わさび加工品、生わさび、新米、キノコなど地元から提供された地域産品を販売しているほか、石見神楽上演が国立三瓶青少年交流の家、さひめ野、さんべ荘の宿泊客向けに開催されている。（No.1）
	○ 三瓶山が有する豊富な資源を活かし、健康増進と観光がコラボレーションした取り組みとして、ヘルスツーリズム、ノルディックウォーキング、温泉活用のほか、島根大学医学部等との連携による生活習慣病予防講座やお灸、太極拳講座を組み入れた健康プログラムの商品開発が図られている。（No.2、3、5）
課題	○ 石見銀山では早朝、仙ノ山頂上で朝食を食べるイベントや三瓶山でも大平山にて朝日を拝んで朝食を頂くイベントなどを実施しており、健康をキーワードとした各種イベントを開催しており、人気も高いものとなっている。日本クアオルト協議会への加盟を契機として、健康づくりを観光に活かす機運が高まっており、石見銀山では、石見銀山ガイドの会にて健康プログラムを実施する予定のほか、温泉津・仁摩地区でもその取り組みが進められている。今後は、健康づくりをキーワードとした三瓶山や石見銀山、温泉津・仁摩地区等の地域固有の素材を活かした健康プログラムにより、観光との連携による収益性の高い事業になることが期待される。（No.6）
	○ 三瓶山の花を観察しながらのウォーキングを実施する「お花見トレッキング・とびちゃんツアー」及び「花の火曜日の花火の日」や北の原キャンプ場、三瓶自然館等の各施設にてハイキング、トレッキングを目的とした各種イベントの実施に取り組んでいる。（No.7）
課題	△ 地域資源活用交流促進施設（国立公園三瓶センター及び三瓶ヘルスセンター）については、現在取り組まれているヘルスツーリズムを充実させながら、既存施設や資源の利活用を高めていく方策への転換が必要である。（No.1）
	△ 健康づくりの拠点化として、温泉利用プログラム健康増進施設の認定等、健康づくり環境の体制づくりが必要である。（No.2）
	△ ヘルスツーリズムをはじめとする各種取り組みは、各施設が個別に企画・運営しており、今後、三瓶山としての一体的な取り組みや施設間が連携した取り組み等を強化していく必要がある。（No.3）
	－ 薬膳料理の提供には、食材の調達や料理の手間等、収益性に課題がある。また、利用者から満足される薬膳料理を提供するためには、栄養士等の専門家を介したメニュー開発が必要となる。（No.4）
△ 健康に関する各種事業は民間団体を中心に実施されているが、案内ガイド等はボランティア活動によるものが大きく、継続性に課題がある。今後は、ヘルスツーリズムを事業化していく等、収益性のあるものに発展させていく必要がある。（No.6）	

(2) アウトドアの拠点づくり

課題				
三瓶山の優れたアウトドア環境や機能を十分に発揮できる体験プログラムを活用し、リピーターの獲得に繋げていくとともに、三瓶山周遊を促進させる。				

項目	No	具体的対策	実施主体	実施状況
「アウトドアの宝庫三瓶」のイメージ定着	1	・北の原キャンプ場を拠点としたハイキング、トレッキング、サイクリングなどの体験、隣接する三瓶青少年交流の家、三瓶自然館や木工館の用意する様々な体験プログラムを活用するとともに、「初めてのキャンプ教室」や「親子で楽しむアウトドア教室」等を開催し、新たな利用者、リピーターの獲得に繋げていく。	行政 各関連施設	△
北の原キャンプ場の有効活用	2	・キャンプ利用者に対して、三瓶温泉をはじめとする優れた資源を有する三瓶全体の良さを満喫させる仕組みを構築し、キャンプ場利用者に三瓶山を周遊させることに繋げていく。	行政 各関連施設	○

○：実施し、継続中 △実施に向け取り組んでいるが課題が残る -：実施までに至っていない

実施	○ 北の原キャンプ場、三瓶自然館等の各施設にてハイキング、トレッキングを目的とした各種イベントに取り組んでいる。(No.1)
	○ モンペルフレンドエリアとして、関西や広島などへの三瓶エリアの情報発信に取り組むとともに、施設個別については、北の原キャンプ場の利用者に対する三瓶温泉入浴料の割引(夏季繁忙期を除く)やさんべ荘利用者に対する観光リフトや三瓶自然館の割引を実施するなど三瓶山での周遊促進に向けて取り組んでいる。(No.2)
課題	△ 三瓶山エリアの優れた資源を活用した体験プログラムの種類や数は来訪者にとって満足のいくものになっていない状況にある。(No.1)

(3) 教育旅行の推進

課題				
教育旅行の推進を図り、将来の交流人口拡大に向けた展開を行う。				

項目	No	具体的対策	実施主体	実施状況
三瓶自然館、国立三瓶青少年交流の家との連携	1	・三瓶自然館、国立三瓶青少年交流の家等の連携により、野鳥観察会、星空観察会、キャンプ場での山野草調理実習など様々な体験学習の機会を創出する。	行政 各関連施設	○
三瓶山、石見銀山を組み合わせた教育旅行	2	・三瓶山での教育旅行に石見銀山の歴史学習メニューを加えることにより、教育旅行の選択肢を増やし、市内宿泊を促進させる。	観光協会	△
原爆ドーム、厳島神社、石見銀山 世界遺産を巡るコース設定	3	・広島原爆ドーム、厳島神社、石見銀山の3つの世界遺産を巡るコース設定も考えられる。	観光協会 各関連施設	-
山村留学制度との連携	4	・小規模校の教育旅行を誘致し、山村留学メニューの体験等、大田市が行っている山村留学制度との連携について検討を行う。	行政 事業者	○

○：実施し、継続中 △実施に向け取り組んでいるが課題が残る -：実施までに至っていない

実施	○ 三瓶自然館、国立三瓶青少年交流の家にて各種の体験学習イベントに取り組んでいる。(No.1)
	○ 国立三瓶青少年交流の家で石見銀山や世界遺産の意義に関する講義を受け、翌日に現地を歩いて学ぶといった教育旅行の造成やPRを展開している。平成28年には、石見銀山と三瓶山それぞれ訪れる教育旅行等は年間30件程度行われているものの、石見銀山と三瓶山のどちらも周遊する教育旅行は関東方面から2件となっている。(No.2)
課題	○ 大田市山村留学センターにおいて、春夏秋冬の短期山村留学を実施(小規模校教育旅行ではなく応募型)するなど、大田の魅力あふれる自然や地域の文化素材を活用した多様な活動を行っている。(No.4)
	△ 教育旅行について、今後、更なる誘致拡大に向けて売り込みを強化していく必要がある。今後、ヘルスツーリズムのプログラムなどを新たな魅力を取り入れて、セールス強化を図るとともに、施設など受け入れが連携して誘致していく必要がある。(No.2) - 教育旅行としての世界遺産を巡るコース設定について、広域的な周遊の課題から実施に至っていない状況となっている。(No.3)

(4) 三瓶山の景観保全と市有地の有効活用

課題				
三瓶山の景観保全を図り、三瓶の魅力を高めていく。				
項目	No	具体的対策	実施主体	実施状況
三瓶山の景観の保全	1	・浮布池周辺的环境整備について、地元自治会等と連携を取りながら、三瓶山を眺望する景観の維持を図るとともに、池の周囲を巡る遊歩道の設置について検討を行う。	行政 まちづくり委員会	○
三瓶山の麓にある浮布池周辺に広がる約40haの山林活用	2	・都市住民の自然体験、農作業体験の場を確保するとともに、観光農園や貸付農園等による都市住民の滞在・宿泊ニーズに応えるメニューを開発する。(三瓶温泉宿泊施設での長期割引宿泊メニュー、地元農家によるグリーンツーリズムの導入、北の原の教育研修施設での宿泊、キャンプ場利用等の多様なニーズに対応する)。		△
三瓶上山地区の市有地の活用	3	・市有地(林)の有効活用の観点から、市外在住者に土地を貸出し、ある程度自由に使うことを認め、定住化に繋げていく方策の検討を行う。		—

○：実施し、継続中 △実施に向け取り組んでいるが課題が残る —：実施までに至っていない

実施	○ 平成22年に浮布池東屋を整備し、憩いと交流の場として活用されている。地元住民ボランティアによる草刈などを年5回実施しているほか、小学生による卒業記念植樹やレンゲツツジの植栽など、地元自治会等と連携を図りながら活動を実施している。(No.1)
	○ 平成27年に米作り体験ツアー(5月：田植え体験ツアー、9月：稲刈り体験ツアー)を実施し、田植えについては、地元の伝統芸能の田植えばやしを披露したほか、地元食材を使った郷土料理の提供等、地域が主体となってグリーンツーリズムを通じた都市交流に向けて取り組んでいる。(No.2)
課題	△ グリーンツーリズムとして定着化を図り、都市交流を促進していくため、各種イベント等の取り組みや三瓶の魅力について積極的に広報・情報発信をしていく必要がある。(No.2)
	— 登山道やヘルシートレイルコース等における地域の維持管理体制を整えるため、施設利用料は協力金の徴収、ガイドツアー料金の一部を施設や景観維持管理に充てる仕組みを検討する必要がある。

(5) 公社所有の観光関連施設取得及び管理

課題				
三瓶観光組織等の自主的な連携体制の構築。				
項目	No	具体的対策	実施主体	実施状況
大田市保養施設公社所有の施設の取得と管理	1	・公社が所有する観光関連施設(さんべ荘、朝日庵、索道(リフト)、ミラドルさんべ、西の原レストハウス、温泉管理所)について、「温泉を軸とした医療と地域資源の連携と活用」、「アウトドア拠点」といった考え方を国立公園三瓶山が向かうべき地域振興の両輪のベクトルとして位置付け、地域振興に繋げていく。	行政	○
市による観光関連施設の取得管理	2	・公設民営型の運営とし、指定管理制度を導入し、指定管理者をさだめ、民間活力を活かした地域づくりを進める。収益性が乏しく、公益性が高い施設及び事業は市の直営、業務委託運営について検討を行う。	行政	○
各部門の施設・運営面の対応策の方向性	3	・さんべ荘 ⇒指定管理による運営を図る。 ・地元で愛される”庶民派日帰り温泉”を主に県外客を中心とした「静寂・情緒感の漂う滞在型温泉」の混在感からの脱却を図り、「滔々と流れ出る豊富なお湯に会いに行く。何度も足を運びたくなる宿」をコンセプトに古き良きおだの文化に触れる格調高い宿を目指した宿づくりを進める。	行政 事業者	○
	4	・索道(三瓶観光リフト) ⇒市直営又は指定管理による運営を図る。	行政 事業者	○
	5	ミラドルさんべ ⇒指定管理による運営を図る。 ・リフトを機軸としたビジターセンター機能を併せ持った野外活動・自然体験の拠点として位置付け、アウトドアショップの誘致の検討を行い、有効活用を図る。	行政	—
	6	西の原レストハウス ⇒指定管理による運営を図る。 ・三瓶周遊観光の「西の観光拠点」としての「公共性」を重視する。観光インフォメーションセンターとしての再構築を行い。物産、トイレ休憩、軽食、イベント企画など「道の駅」や「サービスエリア」	行政 事業者	○

		と同等な機能を持たせる。		
	7	温泉管理所⇒適正業務量の把握による適正委託費との収支均衡を図る。 ・収益事業ではないため、運営赤字にならない程度の事業として収支均衡を続ける事業とする。	行政	○
	8	・朝日庵（大森地区）⇒民間への営業譲渡を前提とした民活を図る。 ・営業ベースでの黒字化、物件賃貸であることから、公社で公益性を重視する必要性は弱まり、民間への営業譲渡を基本とする。	事業者	○

○：実施し、継続中 △実施に向け取り組んでいるが課題が残る ー：実施までに至っていない

実施

- 大田市保養施設管理公社の組織解散（H22年1月）に伴い、大田市が財産取得し、観光関連施設に関する指定管理者制度を導入している。（No. 1、2）
- 国民宿舎さんべ荘をはじめ、三瓶観光リフト、西の原レストハウス等について民間のノウハウと活力を活かした観光客受け入れの取り組みが図られている。（No. 3、4、6）
- ミラドールさんべについては、現在、民間事業者にワイン製造工場として貸付をする手続きを進めている。（No. 5）

2.1.3 大田市共通 進捗状況及び検証結果

(1) 石見銀山遺跡と三瓶山をはじめとする観光関連施設を結ぶ二次交通の整備

課題				
大田市観光の周遊性を高め、滞在時間の延長に繋げていく。				

項目	No	具体的対策	実施主体	実施状況
石見銀山遺跡と三瓶山をはじめとする観光関連施設を結ぶ二次交通の整備	1	<ul style="list-style-type: none"> バス・ジャンボタクシーの確保、定期観光バスの運行などを通じて行う。 観光客の増加による石見銀山遺跡への過度な集中の回避、市内の他の観光スポットへの分散による滞在時間の延長に繋げることを目的とした交通手段を市により確保する。 	行政	△

○：実施し、継続中 △実施に向け取り組んでいるが課題が残る ー：実施までに至っていない

実施	○ 石見銀山大森地区及び温泉津温泉間については、宿泊者対象の予約型ジャンボタクシーが運行されているほか、温泉津タクシーにて市内観光地を巡るコースを設定した観光タクシーの取り組みがされている。(No.1)
	○ 大田市観光動態調査によると、三瓶山エリアでは約7割がエリア内のみの観光となっており、周遊が限定的であるため石見銀山と三瓶山を結ぶ周遊ニーズが低いことが把握されている。(No.1)
課題	○ 石見銀山世界遺産登録5周年事業以降、松江市から石見銀山までの直行連絡バス「らとちゃんバス」の運行を実施しています。平成28年は、31便を運行し、152名の利用者となっている。(約5人/便)(No.1)
	△ 今後の個人旅行者の増加を見込み、バス運行に限らず、レンタカー利用を促進する施策についても検討していく必要がある。(No.1)

(2) 的確な情報発信

課題				
分かりやすくて的確な情報発信をすることでアクセスや周遊性を高める。				

項目	No	具体的対策	実施主体	実施状況
石見銀山世界遺産センター等の有効活用	1	<ul style="list-style-type: none"> 遺跡全体のガイド施設としての役割を持つ世界遺産センターを観光協会の機能も利用しながら情報発信の一つの拠点とする。また、ロード銀山、温泉津ふれあい館等の施設についても「道の駅」の役割を担う必要がある。 	行政 事業者	△
ホームページ	2	<ul style="list-style-type: none"> 大田市観光のトータルページが必要である。(宿泊情報のシステム化、観光ルートの掲載、頻繁な情報の更新、外国語対応、映像の利用、仮想「石見銀山」「三瓶山」「温泉津温泉」商店街の新設、各施設・個店HPとの連携) 	行政 観光協会	○
パンフレット	3	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信型と着地型のパンフレットが必要である。(情報発信型：現在の「おおだ」を活用、着地型：「石見銀山みてあるき」型の三瓶編、温泉津編、仁摩編を作成する) いずれのパンフレットも効果的な配布を行う。 	行政 観光協会	○
IT関連	4	<ul style="list-style-type: none"> 携帯端末でQRコードを利用したシステムの構築により観光客の利便性を向上させ、併せて各施設等の誘客増を図る。 	行政 観光協会	ー
市内全域での周遊チケットの取組み	5	<ul style="list-style-type: none"> 市内の各エリアを繋ぐものとして、周遊チケットの取組みが必要である。 各施設の入場券を割引券として利用するなど、周遊チケット導入方法について検討を行う。 	行政 観光協会	ー

○：実施し、継続中 △実施に向け取り組んでいるが課題が残る ー：実施までに至っていない

実施	○ 石見銀山世界遺産登録5周年事業により、大田市観光に関するトータルページ「石見銀山ウォーキングミュージアム」が開設されたことで、情報を一体的に配信していくことが可能となった。また、大田市観光協会との連携により、SNS (Facebook等) の活用など情報発信機能の強化を図っている。(No.2)
	○ 観光ガイドブックは、本市の観光情報提供と滞在促進を併せた総合観光ガイドブック「石見銀山ウォーキングミュージアム」を作成するとともに、三瓶山については「mont-be11 フレンドエリア三瓶ガイドブック」を作成し、三瓶山周辺の魅力について紹介している。(No.3)

課
題

- △ 市内の情報発信の拠点となる道の駅ロード銀山、温泉津ふれあい館等の施設では、観光ガイドブック配架に留まっており、今後、観光情報検索システムや常駐の観光コンシェルジュの配置等、情報発信拠点としての機能強化について検討が必要となる。(No.1)
- － スマートフォン、タブレット端末の普及に伴い、まち歩き観光や多言語対応、音声案内等、外国人や障がい者等のユニバーサル対応としても、ICT 活用による観光案内システムの構築について、必要性は高まっている。Wi-Fi、GPS の環境整備等も含め、ICT の活用による情報発信について、今後とも検討が必要である。(No.4)

(3) モデル観光ルートの設定・提示

課 題				
市内の観光スポットへの周遊性を高める。				

項目	No	具体的対策	実施主体	実施状況
モデル観光ルートの設定・提示	1	・石見銀山を訪れる観光客へ三瓶山をはじめとする、市内の観光スポットへ周遊をはかるため、テーマ別に観光ルートを設定・提示する。	行政 事業者	○

○：実施し、継続中 △実施に向け取り組んでいるが課題が残る ー：実施までに至っていない

実
施

- 石見銀山世界遺産登録5周年事業により、大田市観光に関するトータルページ「石見銀山ウォーキングミュージアム」が開設されたことで、情報を一体的に配信していくことが可能となった。(再掲) 大田市の資源群や観光地をネットワーク化し、地域の歴史・自然・民俗・産業を一体的なコンテンツとしてPRするとともにテーマ別の観光ルートについて提示を行っている。(No.1)

(4) プリペイドカードシステムの導入

課 題				
プリペイドカードシステムの導入により、利用者にとって便利なシステムの拡大を図る。				

項目	No	具体的対策	実施主体	実施状況
プリペイドカードシステムの導入	1	・プリペイドカードシステムを導入し、公共施設はもちろん地域の中 小事業者活動を促して共通利用体制を確立し、施設に使えるポイント を付与するなど観光客の目線に立った便利なシステムの拡大を 図る	行政 NPO 事業者	○

○：実施し、継続中 △実施に向け取り組んでいるが課題が残る ー：実施までに至っていない

実
施

- 石見銀山における有料施設等については、WAON によるプリペイドカードシステムを導入し、WAON 利用者には施設の割引を行うことで、利用者にとって利便性の高いシステムとなっている。また、WAON から一定の割合が石見銀山基金の寄付金として確保されており、基金の財源の一部を担っている。(No.1)

(5) 推進体制

課 題				
三瓶山再生に向けた推進体制の構築及び大田市観光推進に向けて大田市観光総合プロデューサーを設置する。				

項目	No	具体的対策	実施主体	実施状況
三瓶再生プロジェクト体制の構築	1	・推進体制として「チーム三瓶(仮称)」を組織し、計画に掲げたそ れぞれの事業を実践していく組織とする。	行政 NPO	○
総合プロデューサーの設置	2	・第三者的な観光・レジャーの専門家として大田市観光総合プロデ ューサーを公募等により設置し、観光協会内に配置する。大田市観光 総合プロデューサーは、各事業の進行管理と実行委員会の調整、各 部会への指示等を行う権限を与え、市と連携を密にし、大田市観光 の推進にあたる。	行政 観光協会	○

○：実施し、継続中 △実施に向け取り組んでいるが課題が残る ー：実施までに至っていない

実施	<ul style="list-style-type: none"> ○ 三瓶山エリアでは、大田市、美郷町、飯南町の1市2町により、平成23年度に三瓶山広域ツーリズム振興協議会が発足され広域的な連携のもと、推進体制が構築されている。また、協議会を主体として三瓶エリア観光計画が平成28年に策定されたほか、環境省の国立公園満喫プロジェクトの「大山隠岐国立公園ステップアッププログラム2020」が同年に策定され、三瓶山エリアの観光再生に向けた機運が高まっている。(No.1) ○ 平成24年に観光総合プロデューサーを設置し、大田市観光振興の総合プロデュースを実施し、現在は、発展的に旅行業経験者を大田市観光協会専務理事として迎え入れその役割を担っている。(No.2)
課題	<ul style="list-style-type: none"> － 行政、観光関連事業者や各種団体、地域住民により、それぞれの立場における観光振興に向けた取り組みが展開されているが、各主体の連携や大田市全体として足並みを揃えて観光を推進していく体制について課題が残っており、今後、全市的な観光振興への推進に向けた体制づくりが求められる。

(6) おもてなしの観点から観光振興

課題	大田市全体として来訪者に対するおもてなし活動を推進していく。
----	--------------------------------

項目	No	具体的対策	実施主体	実施状況
市民挙げてのおもてなし	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全国から石見銀山を目指して訪れる観光客や、今後増加が見込まれる外国人観光客に対して、「市民一人ひとりが観光大使」の気持ちを持ってお迎えする。 ・ 行政だけではなく、市内の経済団体、自治会など各種団体や市内企業など全的に市民に呼びかけ「おもてなしのおおだ」を創り上げていく。 	行政 市民	○
観光関連産業のおもてなしの向上	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民はもとより、最前線でのリピーターを獲得するための重要な要素となる。笑顔を決やさず、親切で丁寧な接客を基本に「おもてなし日本一」をキーワードにして実践していく。 	行政 市民	○
環境美化によるおもてなし	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道路周辺での花いっぱい運動をはじめ、地域で行われている環境美化運動について理解を求めていく。「きれいなまちおおだ」を全市的な取り組みとしていく。 	行政 市民	○
おもてなしの観点からの行政運営	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境美化、除雪路線の検討、情報化等、市民にとどまらず、多く訪れる観光客の目線にたった施策の展開が必要である。 	行政	○

○：実施し、継続中 △実施に向け取り組んでいるが課題が残る －：実施までに至っていない

実施	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大田市では、全市を7ブロックに分け、各地域の資源や文化・伝統を守るとともに活かすことで、交流人口拡大や地域振興を目的として地域住民や地域団体を主体とするまちづくり活動が積極的に行われている。また、平成27年には、大田市合併10周年を記念した市民交流事業（おもてなしテント村）が、各ブロックの参加により開催され、地域PRを図るとともに、更なる協働のまちづくりの推進に向けた大きな機運となっている。(No.1) ○ 観光関連産業における事業者については、大田市観光協会等を中心におもてなし研修を随時実施しており、おもてなしの向上に努めている。また、案内の対応力向上のため、石見銀山世界遺産10周年事業として観光事業者を対象に観光地の視察研修等についても実施している。(No.2、4) ○ 大田市の各7ブロックの地域では、それぞれに環境美化活動を取り入れており、自然環境や景観の保全はもとより、来訪者が安全に散策できる環境整備や撮影名所としての活用を目指すなど、まちづくりに繋がる活動の一環として展開されている。(No.3)
----	---

3 大田市の観光資源特性

3.1 歴史・文化的資源

エリア	名称	分類				
大森エリア	石見銀山遺跡とその文化的景観	ユネスコ	世界遺産	世界文化遺産		
	大田市大森銀山	国	保存地区	重要伝統的建造物群保存地区		
	熊谷家住宅		有形文化財	重要文化財(建造物)		
	石見銀山遺跡		記念物	史跡		
	城上神社拝殿		県	有形文化財	建造物	
	石見銀山御料郷宿田儀屋遺宅青山家	市	記念物	史跡		
	石見銀山御料郷宿泉屋遺宅金森家					
	石見銀山代官所同心遺宅柳原家					
	石見銀山代官所地役人遺宅岡家					
	石見銀山代官所地役人遺宅三宅家					
	石見銀山遺跡奉行・代官墓所7所					
	石見銀山代官所地役人遺宅阿部家					
	梨ノ木坂遺跡					
	清水寺山門附扁額1面ほか				有形文化財	建造物
	勝源寺楼門					
	勝源寺本堂					
	願林寺鐘楼門					
	西本寺山門					
	勝源寺東照宮附棟札2枚					
	水上花田植	民俗文化財	無形民俗文化財			
	千人壺	記念物	史跡			
	大森代官所地役人遺宅宗岡家					
	大森代官所地役人遺宅旧河島家					
石清水八幡宮の大杉群	天然記念物					
三瓶山自然林	国			記念物		
三瓶小豆原埋没林	県	記念物	天然記念物			
本宮神社の大杉						
姫逃池のカキツバタ群落	市	民俗文化財	無形民俗文化財			
多根神楽						
定め松				記念物		
高原の椎木						

出展：島根県HP 国・島根県及び市町村の指定文化財

エリア	名称	分類			
温泉津エリア	大田市温泉津	国	保存地区	重要伝統的建造物群 保存地区	
	恵比須神社	県	有形文化財	建造物	
	シツカク踊		民俗文化財	無形民俗文化財	
	沖蛇島のウミネコ繁殖地		記念物	天然記念物	
	水上神社本殿附棟札5枚ほか	市	有形文化財	建造物	
	西田ヨズクハデ [※]		民俗文化財	有形民俗文化財	
	小笠原流大代田植囃子			無形民俗文化財	
	願楽寺紫白庭		記念物		名勝
	大元神社のカツラ				天然記念物
	高野寺のアカガシ林				
	沖泊のハマビワ群落				
	井戸家のキャラボク				
仁摩エリア	明神古墳		県	記念物	史跡
	乙見神社の龍蛇		市	民俗文化財	有形民俗文化財
	宅野子ども神楽	無形民俗文化財			
	琴ヶ浜盆踊り				
	坂灘古墳	記念物		史跡	
	龍岩ののうぜんかずら			天然記念物	
	井戸平左衛門顕彰碑			史跡及び名勝	
大田エリア	五十猛のグロ	国	民俗文化財	重要無形文化財	
	波根西の硅化木		記念物	天然記念物	
	松代鉱山の霰石産地				
	鉄塔附・経堂1	県	有形文化財	建造物	
	物部神社本殿				
	大田両八幡宮の祭礼風流		民俗文化財	無形民俗文化財	
	日本海岸におけるハマナス自生西限地		記念物	天然記念物	
	鬼村の鬼岩				
	掛戸松島	市	記念物	名勝	
	静之窟			天然記念物	
	大賀二千年ハス				
円城寺境内	史跡及び名勝				
その他エリア	市	記念物	天然記念物		

出展：島根県HP 国・島根県及び市町村の指定文化財

3.2 観光資源及び施設

エリア	施設名等			
大森 エリア	● 矢滝城跡	● 山吹城跡	● 釜屋間歩	● 本間歩
	● 仙ノ山	● 佐毘売山神社	● 妙蓮寺	● 宗岡佐渡の墓
	● 吉岡出雲の墓	● 清水寺	● 清水谷製錬所跡	● 極楽寺
	● 豊栄神社	● 下河原吹屋跡	● 大久保石見守長安逆修墓	● 西本寺
	● 栄泉寺	● 観世音寺	● 西性寺	● 井戸神社
	● 勝源寺	● 城上神社	● 銀山公園	● 大久保間歩
	● 龍源寺間歩	● 旧大森区裁判所	● 羅漢寺五百羅漢	● 旧河島家
	● 熊谷家住宅	● 石見銀山資料館	● 石見銀山世界遺産センター	● ● 仙ノ山散策コース
	● ● 石見銀山/山吹城コース	● ● 銀山街道/温津津・沖泊コース	● ● 龍源寺間歩散策コース	
三瓶山 エリア	● 浮布の池	● 三瓶自然館サヒメル	● 三瓶小豆原埋没林公園	● 本宮神社の大杉
	● 佐比売山神社(叶え杭)	● 三瓶室の内	● 定め松	● 三瓶ダム
	● 指書の名号石	● 姫逃池	● 三瓶山自然林	● 三瓶観光リフト
	● 三瓶山(大山隠岐国立公園)	● 三瓶山東の原	● 三瓶山北の原キャンプ場	● 三瓶ダムさひめ湖キャンプ場
	● 浮布の池	● ● 三瓶山自然林散策コース	● ● 三瓶山登山コース	● 国民宿舎さんべ荘
	● 亀の湯	● 鶴の湯	● 小屋原温泉熊谷旅館	● 湯元旅館
	● 四季の宿さひめ野	● 三瓶こもれびの広場木工館	● 国立三瓶青少年交流の家	
温泉津 エリア	● ● やきもの館	● 森山窯	● 椿窯	● 沖の蛇島
	● 大崎鼻	● 福光海岸	● 福光の石山	● 瑞泉寺
	● 高野寺	● 願楽寺紫白庭	● ヨズクハダ	● 金柄杓井戸
	● 銀山街道	● 不言城跡	● 鶴丸城跡	● 櫛山城跡
	● 鼻ぐり岩	● 温泉津沖泊	● 温泉津湾	● 西田水上神社宝物館
	● 金剛院	● 金毘羅神社	● 忠左衛門堂	● 浅原才市像
	● 恵比寿神社	● (有) 椿窯	● 龍澤寺	● 恵瑠寺
	● 西楽寺	● 龍御前神社	● 西念寺	● 愛宕神社
	● 庄屋屋敷	● ゆうゆう館	● 野口雨情の詩碑	● 安楽寺
	● 浅原才市生家	● 巖島神社	● 福光海水浴場	● 櫛島キャンプ場
	● 温泉津温泉「元湯」	● 小浜温泉「才市の湯」	● 温泉津温泉「薬師湯」	● 旅館廣島屋
	● 旅館ますや	● のがわや旅館	● 旅館後楽	● なかのや旅館
	● 旅の宿輝雲荘	● 温泉津庵	● 恵洗寺宿坊「米子屋」	
	仁摩 エリア	● ● 韓島	● 道策の碑	● 坂灘遺跡
● 満行寺		● 波啼寺	● 仁万の珪化木	● 天目洞
● 鰻絵		● 矢筈城跡	● 石見城跡	● 鞆ヶ浦
● 鞆館		● ● 琴ヶ浜	● 永久製錬所跡	● 仁摩サンドミュージアム
● 仁摩健康公園		● 湯迫温泉旅館	● 浄光寺	● ふれあい交流館
● 鞆の銀蔵		● 小さなお宿泉弘坊		
大田 エリア	● 物部神社	● 掛戸松島	● 波根西の珪化木	● 清滝
	● 立神岩・立神島	● ● 五十猛海岸	● 和田珍味本店駐車場	● 静間神社
	● 大屋姫命神社	● 五十猛神社	● 逢浜	● 薬師山
	● 神別れ坂	● 神上	● 韓神新羅神社	● 静之窟
	● 五十猛のグロ	● 久手海水浴場	● 波根海水浴場	

●: 観る・巡る ●: 遊ぶ ●: 自然 ●: 温泉 ●: 体験

出展: 石見銀山ウォーキングミュージアムHP

3.3 その他の資源

3.3.1 郷土料理

郷土料理名	
御勘弁飯	箱寿司（角寿司）
無名院弁当	三瓶そば
へかやき	三瓶バーガー
天ぷらまんじゅう	

出展：大田市HP・石見銀山ウォーキングミュージアムHP

3.3.2 地域産品（おおだブランド認証商品）

商品名	分類	商品名	分類
「一日漁」のえてかれい一夜干	干物	さんべの地アイス	アイス
「一日漁」のノドグロ一夜干	干物	さんべバーガーのハンバーグ	加工肉類
「一日漁」の甘鯛あぶりスモーク	燻製	しゃぶしゃぶ餅	餅
「一日漁」の甘鯛一夜干	干物	つゆぼん	調味料
「一日漁」の白いか一夜干	干物	ネッカたまご	玉子
さば塩辛	塩辛	ママの優しさいだあ	玉子
へかやき	鍋	芋のコンフィチュール いも代官	清涼飲料
鯖寿司	寿司	温泉津メロン	果物
旬の地魚 さわら粕漬け	粕漬け	角寿司	寿司
石見の国 銀しゃり和布	わかめ	三瓶バーガー	ハンバーグ
地魚てんぷら カレイ天	練り物	石見銀山 天領米	米
地魚ハンバーグ	練り物	石見銀山 箱寿司	寿司
味付け豆あじ	干物	石見銀山「げたのは」	焼き菓子
和江す巻き蒲鉾 丈兵衛	練り物	代官様の芋みつ漬	生菓子
和江の光（すまき蒲鉾）	練り物	島根 さんべ浮布米	米
和江天	練り物	さひめの泉	飲料水
“さひめっ娘”みそ	味噌	開春 西田	酒
あさひ・プリン	生菓子	純米吟醸「石見銀山」	酒
いちごジャム	生菓子	特別純米「石見銀山」	酒
えごま玉子	玉子	発泡清酒「雪香」	酒
こめたまご	玉子	薔薇酒「薔薇姫」	酒

出展：おおだブランド認証商品

3.3.3 その他資源・地場産業等

資源・地場産業等	概要
地下資源	・温泉資源、ゼオライト・ベントナイト・福光石・珪砂等の鉱物資源。ゼオライトとベントナイトについては、土壌改良や水質浄化に利用されており、凝灰岩で加工しやすい福光石については、墓石や灯籠等のほか、近年、全国の公共施設等にも使用されている。
石州瓦（瓦産業）	・石見地方で生産される粘土瓦の総称。愛知県の三州瓦、兵庫県の淡路瓦と並んで日本の瓦の3大生産地の1つとして知られている。本市の地場産業を牽引する産業のひとつ。
一日漁	・早朝に出漁して夕方に帰港し、新鮮なままセリにかける全国でも珍しい漁とセリの形態をもつ。